Project Management Institute. Japan

CELEBRATING PMI 25 YEARS

PMI日本支部

アニュアルレポート 2023

CONTENTS

2 PMIとは
2 PMI日本支部とは
3 会長メッセージ
4 創立25周年記念事業
9 2023年のトピックス
9 日本フォーラム2023
12 Japan Festa 2023
14 PM Award 2023
15 Future50
15 配信ルームの設置について
15 Webサイトのリニューアル
16 海外イベント報告
17 マンガで学ぶプロジェクトマネジメント
17 COVID-19対応
18 中期3か年計画
20 PMI標準
22 会員向けサービス
22 個人会員制度
24 法人スポンサー・プログラム
25 アカデミック・スポンサー・プログラム
26 行政プログラム
27 支部活動紹介サービス
28 PMI日本支部の組織
30 部会、スタディ・グループ、コミュニティ活動
30 部会横断活動
31 首都圏中心の支部会員による部会活動
35 関西ブランチ所属支部会員による部会活動
36 中部ブランチ所属支部会員による部会活動
37 地域コミュニティによる活動
38 法人スポンサー社員による活動
38 コミュニティによる活動
40 各種セミナー
40 外部講師招請によるもの
41 理事・部会メンバーが講師を務めるもの
44 情報発信
45 販売図書
46 決算報告
47 2023年度 理事・監事名簿
48 スポンサー一覧

PMIとは

Project Management Institute, Inc.は、1969 年に米国ペンシルバニア州で設立されたプロジェクトマネジメントに関する非営利の専門家団体です。プロジェクトマネジメントの実務慣行と科学の効果的かつ適切な適用を推進するという目的を掲げています。2023年12月末時点で世界中に68万人以上の会員を擁し、約100か国に300支部を展開するグローバルな組織です。

PMBOK®等のPMI標準は、広く世界中の専門家の支持を集めています。また、PMP®など一連の認定資格を提供しており、世界のPMP®資格者数は145万人、全資格を合計すると延べ163万人に及びます。さまざまなイベントやセミナー、eラーニングコースなど、能力開発の機会を提供するとともに、世界の動向を調査分析し積極的な情報発信を行っています。さらに、多方面にわたる活動を通じて、プロジェクトマネジメントへの理解と関心を高め、専門家としての成長を後押しするとともに、企業や組織の事業上の成功に貢献すべく価値提供を続けています。

PMIの活動の多くは、世界各国支部のボランティアによって実施され、新しい仲間と出会いネットワークを広げ、知識と経験を共有する場になっています。

PMI日本支部とは

1998年にPMI, Inc.の支部として「PMI 東京支部」が設立されました。その後、2009年に「一般社団法人PMI日本支部」として組織基盤を整えました。PMI, Inc.と理念を共有しその方針や規則に則った活動を展開する契約を締結して、「PMI日本支部」と名乗ることを許された団体です。PMI, Inc.から会員管理などさまざまな支援と指導を受け、世界の支部と交流しながらプロジェクトマネジメントの発展と普及に努めています。

2023年末の会員数は6,100人を超え世界第3位の規模に成長しました。標準的な支部の活動を大幅に超える独自施策を多数展開して、PMI, Inc.および多数の支部から注目を集めています。日本国内のPMI会員14,000人および、PMP®等の資格者46,000人に向けた情報発信も行っています。

さらに、会員ボランティアと法人スポンサーに支えられて、多数のイベントを開催しています。研究会や委員会などの部会活動に多くの会員が参加し、自由闊達な議論と幅広い知識と経験の共有を進めており、他支部にはないPMI日本支部独自の運営形態が定着しています。

また、常勤職員による事務局体制を整備して安定的な会員サービスを提供しています。

会長メッセージ

2023年1月、PMI日本支部は創立25周年を迎えることができました。長年にわたり支部活動を支えていただいた会員および法人スポンサーの皆さま、支部運営にご参画いただいた諸先輩方に心より感謝申し上げます。2023年は四半世紀の節目に新たな未来を目指してさまざまな挑戦に踏み出した1年でした。

日本支部の会員数は着実に増加を続け、2022年末の5,700名から2023年末には6,100 名を超えました。法人スポンサーも過去最高の116社となりました。何か特別な要因というよりも、多岐にわたる活動の積み重ねが多くの会員の皆さまからご支持いただいているものと思います。引き続き会員の皆さまのご期待に沿うべく、支部活動の充実に努めてまいります。

生成AIに大きな注目が集まった1年でしたが、PMIにおいてもAI利用に関する議論が盛り上がりました。道具として積極的に活用しAIに任せられる作業は任せ、人間は人間ならではの活動に専念すべきで、Power Skillsの重要性が一層高まるとの論調が基本でした。その先で、人間とAIが補完し合い、不可能を可能にするさらなる高みを目指すべきとの主張も見られました。e-Learning教材”Generative AI Overview for Project Managers”や”PMI Infinity”も提供されています。モバイル端末やSNSなどと同様にAIも日常的に使いこなすことが求められますので、PMIの動向にも注目しつつ、積極的な情報発信に努めてまいります。

日本支部では年間を通じて創立25周年記念の活動を多数実施しました。盛大な祝賀会を開催するよりも次の四半世紀への第一歩を踏み出すことに焦点を当て、多くの会員の献身的な協力を得て多様な活動に挑戦しました。より多くの皆さまに日本支部を認知いただき会員層の幅を拡大すべく、手を変え品を変え、多面的に取り組みましたが、PMI-APの支援にも支えられて、次の四半世紀に向けた足掛かりを得ることができました。

PMIはすでに対面イベントを大規模に開催していますが、日本支部も徐々に対面イベントを開催しています。創立25周年記念関連でも対面活動を織り交ぜ、PM Awardの授賞式では受賞者の皆さまとPMI、日本支部関係者の交流機会を設けることができました。過去に戻るのではなく、多様な手段を活用して知識と経験の流通を拡大するとともに、幅広い交流機会を設けて、専門家団体としての役割を効果的に果たす工夫を続けてまいります。

少子高齢化や気候変動の影響が顕在化し、インフレと株高に象徴されるように日本経済には本質的な変化が生じており、組織も個人も行動変容を迫られています。価値観の多様化も進み、それぞれのWell-beingを追求する上で、プロジェクト型活動の重要性が増大しています。複雑な問題に立ち向かうには、プログラム、ポートフォリオとしての取り組みや、PMOによる専門的な推進力が必要になります。これまで経験的な暗黙知や概念的な理解に留まっていたアプローチを体系的、組織的に実践しなければならない状況が現出しています。

このような社会環境の中でPMおよび、日本支部の存在価値が高まっていると感じています。日本支部は初心を忘れず次の四半世紀を見通して、社会的使命を果たすべく活動を充実させてまいりますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人PMI日本支部
会長　端山 毅

創立25周年記念事業

支部創立25周年記念プログラム 事業総括

PMI日本支部 副会長　創立25周年記念プログラム マネジャー　浦田 有佳里

日本支部は2023年1月16日に創立25周年を迎えました。これを記念して、2023年度はさまざまなイベントや新たな取り組みを行いました。

2022年9月から企画検討や担当リーダーの調整などを開始し、2022年12月に理事会にて正式に創立25周年記念プログラムの発足を報告しました。

5年前の20周年記念プログラムでは、日本支部の20年を総ざらいし支部が積み上げた成果をまとめ、さらなる飛躍に向けて進む方針で事業を組み立てました。その後5年を経た本プログラムでは、今後の四半世紀に向けて、これを機会に新たな取り組みを始めることを方針として事業を組み立てました。

若手PMの活動を進めるNext GenerationのイベントやSDGｓやESGといったテーマでの活動推進、また、新たな活動として行政スポンサー向けのイベントや、短時間教育動画の発信を進める活動、地域創生×ART×PMとしてPMoAの取組み等を行い、コロナ禍が収束してきたこともあり数多くのイベントを対面で実施しました。

今回のプログラムで多くの新事業が展開され、今後の四半世紀に向けての新たな一歩になりましたが、これはアクティブメンバーの方々の支援もいただきつつ各事業の担当理事や事務局を含め日本支部全体が一丸となって進めた大きな成果と考えています。

創立25周年記念誌作成

PMI日本支部 理事　創立25周年記念プログラム 25周年記念誌チーム リーダー　中村 亜子

創立20周年からの5年間、政治経済や日常生活、地政学において誰も予想しないさまざまな変化がありましたが、日本支部は未来に向けて都度、柔軟に改善・変革を成し遂げきました。それを踏まえつつ、創立25周年記念誌編纂にあたっては、「新たな四半世紀に向けて」をキーワードに未来志向の情報発信を旨としました。

まず、未来創造に繋がる優れたプロジェクトを表彰する制度として2021年にスタートし3年目を迎えたPM Award 。立ち上げメンバーと今を引き継ぐメンバーで座談会を開催し、PM Awardによる新たな情報発信、価値創出の方向性を語っていただきました。

また、今回はPMI日本支部と接点のない方にもお声がけし、日々の生活の中で体験している“プロジェクト”について投稿をお願いした結果、いわゆるPMBOK® に縛られない多様な視点・新しいアイデアをいただくことが出来ました。

もちろん、本記念誌の制作にはその他多くの方々が記事を寄稿してくださり、さまざまな視点からの情報や洞察を提供することができたことは言うまでもありません。

創立25周年を祝うにふさわしい内容となった本記念誌を通じて、より多くの方々へプロジェクトマネジメントへの関心と理解が広がることを願っています。

記念イベント開催

PMI日本支部 副会長　創立25周年記念プログラム イベント開催 リーダー　森田 公至

創立25周年を記念して、2023年12月9日（土）に部会リーダー交流会の後に記念パーティーを開催しました。

PMI本部から理事のGalen Townson、PMI APからYeYoon Kim氏、Yolada Kim氏、Nan Sethi氏、奥原修氏にもゲスト参加いただき、総勢約80名が参集し、コロナ明け後最大のネットワーキングイベントとなりました。

パーティーの余興として、事務局員の中谷光夫さん、リスクマネジメント研究会の足立康子さんに社交ダンスを披露いただきました。冒頭で社交ダンスについてガイダンスをいただいたため、詳しくない方でも楽しむことができました。また、PMツール研究会の野村和哉さんには、1分での即興似顔絵作成を披露いただきました。わずか1分での大変見事な出来栄えに歓声が上がりアンコールにも応えていただきました。

終盤では、創立20周年記念パーティーでも好評だった豪華景品が当たる大抽選会を行いました。特大タラバガニ1kgや黒毛和牛サーロインステーキなど30品を参加者が手にし、盛況裡に閉幕となりました。

Galen Townsonさんは、とても良い思い出になったと大変喜んで帰国されました。

参加いただけなかった方は、次回は30周年記念パーティーを楽しみにお待ちください。

Next Generation 25thイベント

PMI日本支部 理事　創立25周年記念プログラム Next Generationイベント リーダー　杉原 秀保

未来創造プログラムでは過去3年間、セミナーやワークショップを実施してきましたが、創立25周年にあたって規模を拡大し、11月26日（日）に40歳以下の方達48名に六本木の会場にお集まりいただき、一日でセミナー、ワークショップ、交流会を行う初のリアルイベントを開催しました。結果、若い方々が日本支部の活動内容を知り、魅力を感じていただける機会となりました。

第1部のセミナーは、「人との出会いを原動力にSDGsとキャリア形成の関係性」と題してHI合同会社代表の平原依文氏から、また、「明日の貴方を導く方法　コンピテンシーって何？」と題して神庭PM研究所代表の神庭弘年氏からご講演いただきました。続くワークショップでは、楠川達也氏／株式会社マネジメントソリューションズと池田修一氏／株式会社ポジティブ・ラーニング代表のリードで、同窓会の企画という身近なテーマでプロジェクトマネジメントの実践スキルを学べるワークショップを行い、メンバー間の活発なディスカッションや発表を通じてスキルを習得していただきました。

また、その後の交流会は場所を恵比寿に移し、肉料理とワインで有名なレストランで一日の学びや出会いを振返りながら皆さん笑顔で楽しそうな時間を過ごしていただきました。特に印象的だったのは、「今迄で一番実用的で実りあるセミナーだった。次回もぜひ参加したい。モチベーションが高まった。仕事で使える考え方を学べた。お肉も美味しかった。」など、ほぼ全ての参加者がポジティブな感想を述べておられた点です。

今後も若年層の方々のニーズに沿ったイベントを企画・開催し、日本支部活動に参画いただけけるよう活動していきます。

創立25周年記念事業

SDGs活動 25thイベント

PMI日本支部 副会長　創立25周年記念プログラム SDGs活動 リーダー　浦田 有佳里

創立25周年記念事業の一環として、12月6日（水）の夜にSDGs活動に関わるオンラインセッションを開催しました。ここでは、ウェルビーイング指標のひとグループ評価づくりに精通されている叡啓大学ソーシャルシステムデザイン学部学部長・教授 保井俊之先生から、「ソーシャルシステムデザイン＝社会で問いを設定し、解答を自ら探求するための方法論：ウェルビーイング経営の進め方」と題して講演いただきました。

保井教授

同時に、日本支部の各部会からの発表として、SDGsスタートアップ研究会代表 稲葉涼太氏「SDGsスタートアップ～SDGs達成への歩みを進めるための実践活動～」、ソーシャルプロジェクトマネジメント研究会代表 大久保剛氏「『まちづくり』＝コミュニティキャピタルに関する研究・支援について」、女性コミュニティ代表 小川原陽子氏「女性コミュニティ活動報告 ～循環型社会を目指して、私たちができること～」、地域サービス委員会委員 杉村博章氏「ゼロ・ウェイスト宣言の町・上勝町でのボランティア活動からSDGsについて考える」をお届けしました。

本セミナーを通して、企業ブランディング、心豊かな暮らしの変化を可視化するウェルビーイング指標、また、プロジェクトマネジメントと各部会のSDGs活動に関する取り組み内容を発信することができました。

上勝町での活動

アート&地域創生イベント

PMI日本支部 副会長　創立25周年記念プログラム アート&地域創生イベント リーダー　斉藤 学

日本支部創立25周年を機に、アート等の文化芸術活動におけるプロジェクトマネジメントの調査・研究活動「PMoA (Project Management of Arts)」を開始しました。この趣旨に賛同いただいた「ATAMI ART GRANT 2023」のご協力の下、「アート×プロジェクトマネジメント」をテーマとしたPMoAスタートアップ・イベントを熱海市内の観光・アート施設で開催し、「アート」、「地域創生」、「IT」にまつわるスペシャリストに登壇いただきました。

- **11月19日（日）**
  親子で楽しむアート・アウトリーチ・イベント
  「楽しく、考える、作るだけじゃないアート・ワークショップ　ー 子どもと大人のためのやんわり芸術講座」
- **11月23日（木・祝）　対話型鑑賞ワークショップ**
  「現代アートのわからないを愉しむ～ATAMI ART GRANTの作品を観に行こう！～」
- **12月3日（日）　創立25周年記念“PMoA”セミナー**
  ※オプション：展覧会ツアー、交流会

種類	イベント名	定員	実績
ワークショップ	親子アート・ワークショップ	10組	9組
	対話型鑑賞ワークショップ	20名	22名
スタートアップイベント	PMoAセミナー（会場参加）	80名	62名
	PMoAセミナー（オンデマンド配信）	-	239名
	展覧会ツアー	30名	42名
	交流会	30名	34名

行政スポンサー 25thイベント

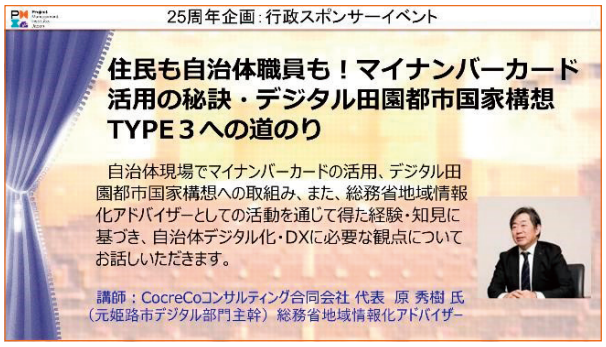
PMI日本支部 副会長　創立25周年記念プログラム 行政スポンサー イベント リーダー　浦田 有佳里

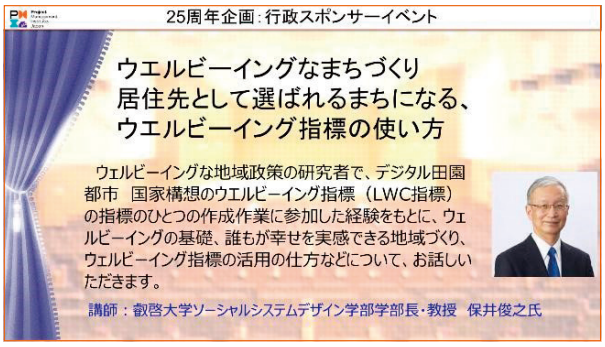
支部のスポンサー制度に行政スポンサーがありますが、今はまだまだ活性化できていない状況です。創立25周年事業の一環として、これを機に行政へのプロジェクトマネジメントの取組みを促進すべく行政スポンサーイベントを開催しました。

元姫路市デジタル部門主幹の原氏にご登壇いただき、マイナンバーカードの活用法やデジタル田園都市国家構想TYPE3への道のりについてお話しいただきました。また、叡啓大学の保井教授からは、デジタル田園都市国家構想の評価軸となるウェルビーイング指標（LWC指標）の評価づくりに参加された経験から、地域や企業のウェルビーイングとは、といった観点でお話しいただきました。

また、自治体や省庁職員の方々に訴求するため、自治体通信のWebサイトを活用して参加者を募った結果、行政職員の方々にも多く参加いただくことができました。

今後、行政へのプロジェクトマネジメントの適用を推進していくための貴重な第一歩となりました。





その結果、都心から離れた地域という条件であったにも関わらず、計画どおりかそれを上回る方々に参加いただき、高評価を得ることが出来ました。PMoAをテーマに、2024年度も活動を強化していく予定にしています。

COLUMN

佐野 仁美　創立25周年記念イベント アート&地域創生イベント企画運営

支部創立25周年記念のアート&地域創生イベントのうち、子供向けワークショップの企画運営を担当しました。2022年にPMPを取得して日本支部に加入後の初めての支部活動でした。当該イベント自体も初めての開催だったので、コアメンバーの負担は大きかったのですが、参加者の満足度が高いイベントに仕上がりました。親子の想像力と創造力のコミュニケーションを目的とした子供向けワークショップでは、講師アーティスト、参加親子、PMIメンバーにそれぞれ気づきや学びがあり、ほっこりとした気持ちになりました。これからも素敵なプロジェクトを企画運営できたらよいと思っています。

創立25周年記念事業

短時間教材映像の制作

PMI日本支部 理事　創立25周年記念プログラム 短時間教材映像の制作 リーダー　稲葉 涼太

私たちは、学生、若者、起業家、ビジネスリーダなど、これからの未来を担い世の中を変えていく方々を『Change Makers』と呼んでいます。多くの『Change Makers』にプロジェクトマネジメントを知っていただき彼らのアイデアを実現し、社会がより持続的に成長するための一助とすべく、創立25周年を機に「短時間映像教材」動画チャンネルを開設しました。

今回の映像教材シリーズは10分から20分の短時間でプロジェクトマネジメントのエッセンスを学べる動画となっています。『アジャイル』や『コンピテンシー』などビジネス現場での重要テーマもあれば、『マンションの自治会や少年野球』、『苦手なことの克服』など日常生活で役立つことをテーマにした動画、『SDGsと恋愛論』や『SDGsとプレゼンテーション』などSDGsをユニークな視点から学ぶ動画もあります。また、『少子高齢化社会の活性化』や『デジタルデバイド』、『学生の社会貢献活動』など社会課題解決を扱う動画もあります。

第一弾として8月に13本を、第二弾として12月に16本を公開しました。2024年以降も継続して皆さまが楽しみながら学べる動画を公開していく予定です。ぜひチャンネル登録を！

https://www.youtube.com/@Webinar_PMIJ

COLUMN　**岡橋 正明**　関西医療PM研究会

今、日本支部で話題の短時間映像教材「私ってこんな仕事してたんだ!?」を制作させていただきました。この映像はすべてPower Pointの図形の組み合わせで出来ています。1シーンの映像に使用した部品点数は最大百数十個、全部品点数が数百個のため、制作には予想外の時間がかかり締め切りを何度も延ばしていただき事務局の方にはご迷惑をおかけしました。2023年末時点で短時間映像教材の中での視聴数は2位となっており、苦労した甲斐がありました。

25周年プロモーション活動

PMI日本支部 理事　創立25周年記念プログラム 25周年プロモーション活動 リーダー　永合 由美子

他の記念プログラムに先駆けて2023年2月にボランティアメンバーを募集し、集まった8名でまずは活動の起点となる2分間動画の制作に着手しました。メイン視聴ターゲットをPMI関係者と定め、「次の四半世紀につながる内容」、「海外から見ても日本支部を理解できる動画」を意識し、さまざまなコミュニティ活動や、PM Award、プロジェクトマネジメント研究報告書などを紹介しながら、富士山や桜をモチーフに和のテイストが感じられるテンポの良い仕上がりで、2023年に繰り広げられる記念イベントでも活用出来るものを制作しました（https://www.youtube.com/watch?v=BNTmnQW1uho）。

また、PMの魅力を発信するコラム原稿を作成し、創立25周年記念WEBページ（https://www.pmijapan.org/25th/）での発信を継続しました。WBCの栗山監督、諸葛亮のプロジェクトマネジメント、料理やAIを題材とした内容で、プロジェクトマネジメントに馴染みのない方の興味も惹くものとなっています。

年末には活動の集大成を投稿（https://www.pmi-japan.org/25th/?p=581）。「日本支部はボランティアで成り立っているということがよくわかった。知り合いも増え、いろんなことが吸収できた」、「イベントを組み立てる面白さに気付き、自社では得られない出会いや学びあった」などの参加メンバーの声が寄せられました。

COLUMN　**中村 ますみ**　セミナープログラム、女性コミュニティ

セミナープログラムは、講師陣の貴重な講演を拝聴できるだけでなく参加者の知見の広い質疑にも感銘を受け、自らの成長と学びの源になっています。女性コミュニティでは、他社・他業種の女性PMの皆さんと共通の関心毎や価値を共有しながらコミュニケーションを深めることで刺激を受け、自身の視野が広がりました。2023年度は支部創立25周年のプロモーション活動にも参加しました。コラム執筆やプレスリリース発信を通じた初めての経験は、非常に良い思い出となりました。このような活動を通じて得た経験や人脈が、今後の成長に大きなプラスになると感じています。

2023年のトピックス

PMI日本フォーラム2023

日程　：2023年7月8日(土)～8月31日(木)
テーマ　：チェンジリーダーを支えるプロジェクトマネジメント
～ Project Management expected by Change Leaders ～
講演形態：リモート配信
・ライブ配信：7月8日(土)、9日(日)
基調講演、招待講演
(ライブ配信の講演は終了後にオンデマンド配信)
・オンデマンド配信：7月9日(土)～8月31(木)
基調講演、招待講演、研究報告講演、アカデミック講演

講演数　：全65セッション
・基調・招待講演：　12
・研究報告講演
:部会　37
:法人スポンサーSG　3
:スポンサー企業様　5
・アカデミック講演：　8

沈静化の兆しが見えてきたとは言えコロナ禍も4年目。自然災害も増え国内外の情勢が混沌とする中、日本フォーラムは4年連続で全講演をリモートにて配信しました。

2023年も各界からお招きした招待講演、実務に根差した幅広い研究報告講演、学術研究の現状と未来等、多種多彩な講演により盛況裡に終了することが出来ました。

【基調・招待講演】

開催の冒頭、日本支部 端山毅会長の挨拶に続き、PMI本部のPMI President & CEOであるPierre Le Manh氏から「Project Managers: Key Drivers of Digital Transformation」と題し、PMI APのSoHyun Kang氏とのQ&Aセッションを交えた基調講演(ビデオ録画)がありました。その後、11人の国内識者から、組織横断によるビッグデータの利活用、IT人材育成、自治体でのプロジェクトマネジメント導入等々、2日間にわたり示唆に富む講演をいただきました。また、ライブ配信終了後も8月31日まで(2022年より1カ月延長)申込みも受け付け、全講演の録画をオンデマンド聴講いただけるようにしました。その結果、皆さまの聴講・研鑽機会の拡大を強く支援できました。

日時	No	講演者	所属組織	講演タイトル
7月8日（土）	1	Pierre Le Manh 氏	PMI President & CEO	Project Managers: Key Drivers of Digital Transformation プロジェクト・マネジャー：DX推進の主要原動力
	2	盛合 志帆 氏	国立研究開発法人 情報通信研究機構 執行役、サイバーセキュリティ研究所長	組織横断での安全なデータ連携・利活用に向けて
	3	角田 仁 氏	デジタル人材育成学会 会長、千葉工業大学社会システム科学部 教授	デジタル人材育成の国内外の現況とチェンジリーダー育成に関する考察
	4	石井 智康 氏	石井食品株式会社 代表取締役社長 執行役員	食品製造とPMとアジャイル ～日本企業におけるPMの可能性について～
	5	中島 智治 氏	広島県福山市副市長	地方自治体での働き方改革 プロジェクトマネジメント導入への挑戦
	6	羽生田 栄一 氏	独立行政法人情報処理推進機構 デジタル人材センター 主任研究員、 株式会社豆蔵 取締役グループCTO	DX時代の人材像～DX白書とデジタル推進人材スキル標準の視点から
7月9日（日）	7	中川 聰 氏	トライポッド・デザイン株式会社CEO 国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学医学部 客員教授	私は私の期待を超えたい EXPECTOLOGYから学ぶ期待以上を生み出す方法論
	8	土井 陵 氏	THE NORTH FACE ATHLETE	長距離山岳レース(ビックプロジェクト)に向けてのアプローチとプランニング
	9	藤井 拓 氏	M3&T Lab. 所長、 アドソル日進株式会社 特別顧問	マネジメント3.0をその基礎となる複雑適応系、自己組織化から理解しよう
	10	端山 毅 氏	株式会社NTTデータ 技術革新統括本部 テクノロジーストラテジスト	プロジェクトマネジメントを組織の文化に根付かせるために
	11	染谷 悟 氏	株式会社トレードワルツ　取締役COO、CMO 兼グローバル&アライアンス事業本部長、 マーケティング&セールス本部長	海外貿易プラットフォーム連携によるAPEC地域の貿易完全電子化への挑戦
	12	イネステーラー 笠 章子 氏	大塚ホールディングス株式会社 常務執行役員 人材企画部長、芝浦工業大学 非常勤講師、早稲田大学 グローバル・ストラテジック・リーダーシップ研究所 招聘研究員	理工系人材が企業経営を担うための課題と方策 ー企業人の博士号取得の体験談を含めー

2023年のトピックス

【アカデミック講演】

アカデミック講演では、オンデマンド配信で8セッションの講演を提供しました。

2023年は、産学地域連携、地元に根差した課題発見のPBLの事例、リスキリングのキーとして世界で導入が加速するマイクロクレデンシャルの最新動向、PMIの教育リソースや新しいPMIタレント・トライアングルを踏まえた、価値創造のためのPM教育に関する大学での事例紹介とパネルディスカッション、中学生～大学生向けのPM教育活動についての事例紹介、ソフトスキル(パワースキル)を育成するためのアクティブラーニングの事例紹介、大学でのPM教育の成果をマイプロジェクトへの活用事例として学生が発表、そして、チェンジリーダーに必要な自己覚醒での自己認識の獲得やリーダーシップの獲得についてのアプローチを紹介しました。

なお、企画・運営は教育国際化委員会が中心となり、アカデミック・スポンサーの大学関係の先生方にも協力いただいて実施しました。

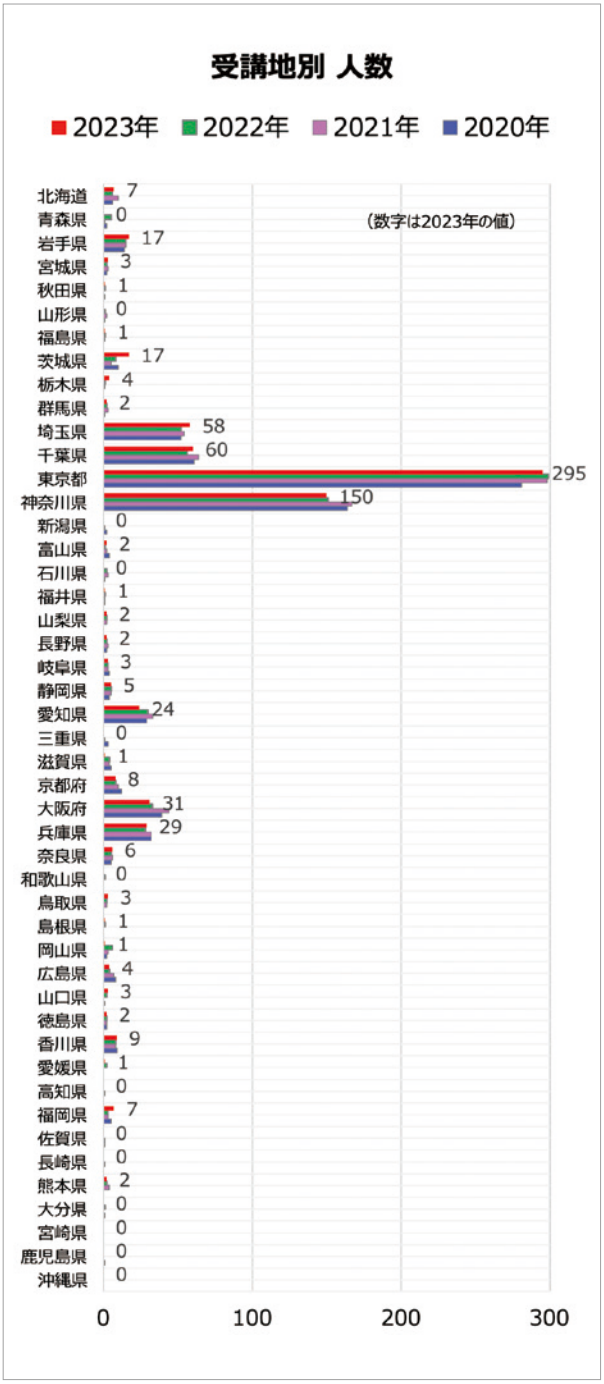
【研究報告講演】

研究報告講演は、2020年からの継続として各講演者に事前に作成いただいた講演ビデオ(20の部会・コミュニティから37セッション、3つの法人スポンサー・スタディグループから3セッション、フォーラム・スポンサー4社から5セッション 計45セッション)を全てオンデマンドで配信しました。

日本支部の各部会や法人スポンサー・スタディグループからは、AI、DX、SDGs、DA、PMBOK® ガイド第７版、チェンジリーダーなど今の時代をキーワードとした先端分野の研究のほか、組織・人材など組織運営に関わる研究など、多岐にわたる成果が発表されました。スポンサー様からは、DevOps、CCPMなど生産性向上、PMのコンピテンシー、タレントマネジメントなど人材育成に関わる実践現場等を講演いただきました。

【受講規模】

全講演のオンデマンド聴講期間は2022年より1カ月長くし8月31日まで設け、最終的には昨年と同様820名を超える方々から受講申し込みをいただきました。県別に見た受講地域は例年と同じ傾向でした。関東圏が圧倒的に多いものの、北海道から九州に至るまで多くの地域からの聴講いただきました。また、海外からは米国、ラオス、韓国、インド、中国の5ケ国から5名の聴講がありました。

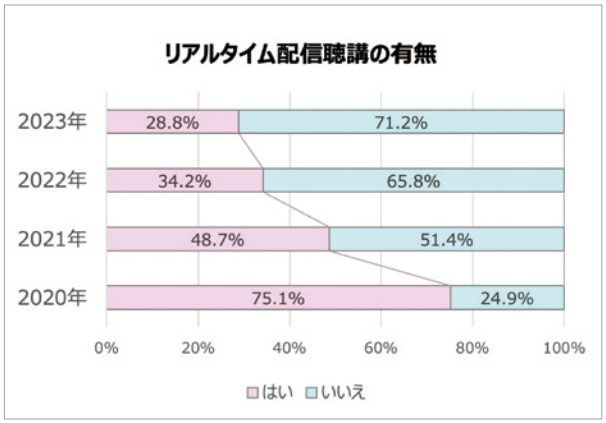


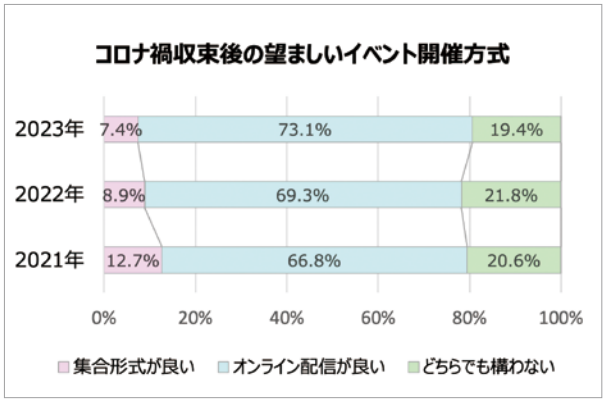
【評価】

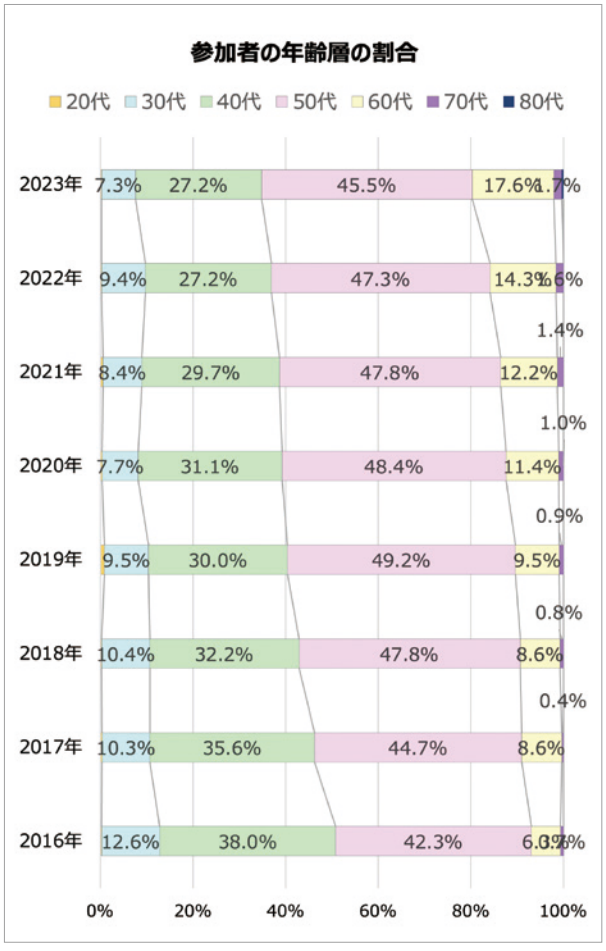
総合的には「大変良かった」54%、「良かった」45%で計99%となり、極めて高い評価をいただきました。

【リアルタイム配信とオンデマンド配信】

2020年から始めたオンデマンド配信は再生時の早送り機能等も付加されて重宝いただいており、オンデマンド配信を聴講する方が毎年増加しています。そのため、リアルタイム配信を聴講する方は漸減傾向にあり、2023年は全体の3割を下回りました。







今後の開催方式については、「オンライン配信がよい」とする方が漸増傾向にあり、全体の3/4を占め、「集合形式がよい」とする方は約7%となっています。

これからは、リアルタイム配信の魅力もさらに高めるとともに、オンライン形式と集合形式それぞれの特長を生かした魅力的な融合を模索する必要があると考えています。

この数年の参加者の年齢構成を見ると、高年齢化が如実に進んでいることが伺えます。

【まとめ】

2021年6月に導入・運用開始したイベント管理プラットフォーム『eventos』は、その後2年を経過。運営会社に対する機能改修要望もいくつか受け入れられ、操作する事務局員はもとより、聴講いただく皆さまにとっても少しずつですが使い勝手のよいものになってきていると思います。

また、基調・招待講演の準備・当日運営については、昨年に続き、リハーサルを含めて事務局メンバーだけでこなすことができました。2020年、2021年とリモート配信下で多くのボランティアの方々の手を煩わせていた頃と比べ格段の進化を遂げていると自負しています。

ただ、コロナ禍以前、夏の炎天下で2日間にわたり多くのボランティアの方々に学術総合センター（神保町）に参集いただき、理事・事務局員とともに皆で汗を流して運営し、交流会では笑顔で祝杯をあげていた頃の充実感も忘れてはならないとも考えています。

2024年も7月盛夏の2日間での開催を予定しています。皆さまからいただいたご意見等も参考に、より満足感が得られ魅力的な開催形態は何かをこれからも検討して行きます。

2023年のトピックス

PMI Japan Festa 2023

2023年11月11日（土）、12日（日）にPMI Japan Festa 2023が開催され、12月6日まで各講演のオンデマンド配信を行いました。オンデマンド配信は当初は11月末までの予定でしたが、各方面からのご要望にお応えして配信期間を延長しました。

2023年5月、WHOによる新型コロナウイルス感染症を巡る緊急事態宣言が終了。世界的な新型コロナ対策も大きな節目を迎え、日本においても2類相当から5類感染症に移行されました。他方、終わりの見えないウクライナ紛争やオーバーツーリズム問題の拡大など、これまでとは異なる態様・変化が我々の周囲に訪れつつあります。この変化は、新型コロナウイルスが初めて流行した2020年に対応せざるを得なかった受け身的なものとは異なり、自ら時流を読んで変化に対応し乗り越えて行かねばならない、能動的な変化なのではないかと捉えました。

この変化をさらにリードしていくことについて皆さんと共に考えたいとの思いと、25周年のシルバー・ジュビリーを迎えた日本支部の記念行事等に鑑み、テーマとして「チェンジリーダーが期待するプロジェクトマネジメント」を据えました。

2022年同様、今年も「PM Award 2023」の最優秀賞受賞者をお招きするなど、各界のリーダーに登壇いただきました。

日程　：2023年11月11日(土)～12月6日(水)
テーマ　：チェンジリーダーが期待するプロジェクトマネジメント
講演形態：リモート配信
●リアルタイム配信：11月11日(土)、12日(日)
各日5セッション 計10セッション
●オンデマンド配信：11月11日(土)～12月6日(水)

PMI Japan Festa 2023登壇講師

日時	No	講師	所属	講演テーマ
11月11日（土）	1	福田 譲 氏	富士通株式会社 執行役員EVP、CDXO、CIO	どうやる?巨大組織の変革マネジメント ～富士通のグローバル標準化プロジェクト“OneFujitsu”における挑戦～
	2	上村 正美 氏	阪急電鉄株式会社 専務取締役 都市交通事業本部長	アフターコロナにおける持続可能なモビリティとまちづくり
	3	亀ヶ谷 正信 氏	Social Healthcare Design株式会社 代表取締役CEO	二宮尊徳を脳科学で紐解く ～変革時に肝となるマネジメント～
	4	新岡 優子 氏	ビジネスファシリテーション・サービス 代表	AIとOKRで実現する現場と経営の連携強化、 そして経営支援ツールとしてのChatGPTの使い方
	5-1	甲斐 武彦 氏 （PM Award Large 部門 最優秀プロジェクト賞）	株式会社ネオマルス 代表取締役	まちなか社員食堂GoSmart
	5-2	上東 亜佑稀 氏、水野 真子 氏 （PM Award Small & Medium 部門 最優秀プロジェクト賞）	一般社団法人 コード・フォー・ジャパン	カーボンフットプリント可視化プロジェクト 「じぶんごとプラネット」
11月12日（日）	6	近内 悠太 氏	教育者・哲学研究者	贈与とイノベーション
	7	岡住 修兵 氏	稲とアガベ株式会社 代表取締役社長	クラフトサケ製造を起点に、男鹿のまちを未来につなぐ
	8	松久 直司 氏 （2023年 PMI Future 50 選出）	東京大学先端科学技術研究センター 准教授	異分野融合で実現する次世代ウェアラブルデバイス
	9	谷島 宣之 氏	株式会社日経BP 元日経コンピュータ編集長	チェンジのために「ソフトを他人に作らせる日本」をどうするか
	10	渡部カンコロンゴ清花 氏	NPO法人WELgee 代表理事	日本のビジネスを変える! ～チェンジリーダーとしての難民人材たち～

Japan Festaは、PMI標準関連のセミナーではカバーされていない、より広範で重要なエリアの最新情報を提供することをミッションとしています。そのため講演内容は一般的な理論やフレームワークよりも現場や実践においての経験を重視し、その中から新しい気づきやアプローチを発見していただくことを目指しています。企画・運営に携わるセミナープログラムのボランティアスタッフも現役のプロジェクト・マネジャーですので、PMの視点による「聴いてみたい講演」という目線で講師を選定しています。

2023年度のFestaの特長は以下のとおりです。

【運営面での趣向】

企画・運営にあたるセミナープログラムの準備活動ぶりや、講師との事前リハーサルの様子などをコンパクトにまとめた動画や、グラフィックレコーディングは今年も好評いただきました。

【日本支部内外の他のイベントとのコラボレーション】

昨年に引き続き今年もPM Awardとのコラボレーションを行い、PM Awardでの2部門（Large部門、Small & Medium部門）におけるそれぞれの最優秀プロジェクト受賞者から、プロジェクトの内容をご紹介いただきました。

【聴講者からの評価、聴講地域などの特徴】

アンケート結果から満足度を見ると「大変良かった」と「良かった」の合計が98%を超えており、例年同様に好評いただいたことがわかります。また、日本フォーラムと同様、関東地域での聴講者が多くなっています。海外からも韓国、インドネシア、アメリカ（2人）、中国、オーストリアと、さまざまな国から参加いただきました。リアルタイムで聴講された方は申込者全体の27%で、年々オンデマンド聴講者が多くなる傾向が続いています。

【聴講された皆さまからの声の一例】

- ○多彩なテーマが展開されており、収穫の多いイベントだった。
- ○色々な分野の登壇者の話を聞け、普段触れない分野が多かったこともあり、楽しく視聴できた。
- ○プロジェクト管理を志す者として、取り入れたい思考や心に刺さる言葉を見つける楽しみや醍醐味があります。
- ○新たな発見や気づきがあって良き時間となりました。様々な形のプロジェクトがあってそれぞれの事例からの学びや、俯瞰した哲学や科学的視点など、どれも面白い内容でした。

セミナープログラムのボランティアスタッフが企画から運営の全てをプロジェクトとして実践するPMI Japan Festa。今回も10講演11団体のお話から、プロジェクトマネジメントを進めるうえでの新たな視座、示唆を皆さまに得ていただけたものと考えています。

開幕時の放映動画

閉幕時の放映動画

グラフィックレコーディングの例

2023年のトピックス

PM Award 2023

社会を変えていく「プロジェクト」が世界中で多数行われ、海外ではPMIを中心にさまざまな優れたプロジェクトやプロジェクトマネジメントを実践している企業・団体を表彰する制度が多く創設されてきています。そこで日本支部においても、PMI Globalの協力の下、日本国内および日本の企業・団体が実践する卓越したプロジェクトを表彰する制度として2021年にPM Awardを創設しました。

PM Awardの詳細は、Webサイト（https://www.pmij-award.net/）をご覧ください。

第3回目となる「PM Award 2023」は、下表のスケジュールで実施しました。

2023年は、「Large部門」と「Small & Medium部門」の2部門で募集を行い、応募いただいたプロジェクトから8件のプロジェクトをファイナリストとして選出しました。また、ファイナリストセミナーには約1,600名が視聴登録、オンライン投票には約1,200名が参加されました。なお、今回は授賞セレモニーや受賞記念パーティーには、各受賞企業・団体の方々や関係者に多数お越しいただき、お互いに悦びを分かち合っていただくことができました。

授賞セレモニーでは、最優秀プロジェクト賞2件、優秀プロジェクト賞8件、特別賞5件が授与されました。また、ファイナリストには選出されなかったものの、今後を期待したいプロジェクトに奨励賞1件が授与されています。

今回も運営ボランティアをはじめ、多くの方々のご支援とご協力により無事終えることができました。今後も運営を改善しながら、より多くの方々に参加いただき、より広くプロジェクトマネジメントの社会的な認知向上に貢献できる取り組みにして参ります。

時期	イベント等
2023/4	・開催案内
2023/5～2023/6	・エントリープロジェクト募集
2023/8	・ファイナリスト発表
2023/9	・ファイナリストオンラインセミナー ・セミナー視聴者による投票
2023/10	・授賞セレモニー（表彰式）および受賞記念パーティー

授賞セレモニー（表彰式）記念写真

「PM Award 2023」受賞者の皆さん

受賞名	受賞プロジェクト名	主体企業・団体
最優秀プロジェクト賞 **優秀プロジェクト賞（Large部門）**	**まちなか社員食堂 GoSmart**	**株式会社ネオマルス**
最優秀プロジェクト賞 **優秀プロジェクト賞** **（Small and Medium部門）**	**カーボンフットプリント可視化プロジェクト「じぶんごとプラネット」**	**一般社団法人コード・フォー・ジャパン**
優秀プロジェクト賞（Large部門）	リモート監視サービス「MONiPLAT」	株式会社バルカー
優秀プロジェクト賞（Large部門） 特別賞「パーソル総研 well-being賞」	バックオフィス業務改革DXプロジェクト「グループ共通IT TSUNAGU」	日本電信電話株式会社・NTTコムウェア株式会社 NTTファイナンス株式会社・株式会社NTT ExCパートナー
優秀プロジェクト賞（Large部門） 特別賞「PMI Asia Pacific賞」 特別賞「NISSAY ITアカデミー賞」	クロスボーダーM&Aによる国際事業のスピードアップ	東日本旅客鉄道株式会社
優秀プロジェクト賞（Large部門）	DXによる生活者との接点創出（ADaaS）アジャイルライトプロジェクト	アフラック生命保険株式会社
優秀プロジェクト賞（Large部門） 特別賞「JISA DX賞」	ITモダナイゼーションプログラム	オリックス生命保険株式会社
優秀プロジェクト賞 （Small & Medium部門） 特別賞「岡山大学 SDGsイノベーション賞」	文京思い出横丁in傳通院	文京思い出横丁実行委員会 NPO法人文京BASE
奨励賞	兵庫県美方郡新温泉町における ユニバーサルツーリズムの実現に向けて	株式会社DOWELL・湯村温泉観光協会 創造工房フィールドゲート

COLUMN

近藤 昇久 セミナープログラム、PM Award ワーキング・グループ

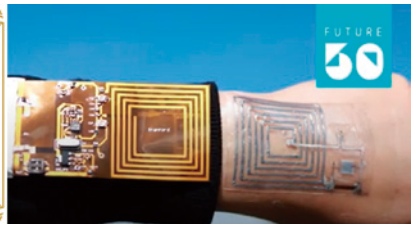
2013年にセミナープログラム（当時 セミナー委員会）に参加して以来10年以上にわたって部会活動に関わり、特に2015年から2016年にPMI Japan Festa統括PMを、2018年から2019年にセミナープログラム代表を務めました。プロジェクトマネジメントの仕事に携わる中で、分野を超えた知識と経験が不可欠であると気付き、月例セミナーやPMI Japan Festaの企画において幅広い分野の講師を招聘することに取り組んでいます。2022年からはPM Award Working Groupにも参加していますが、日本の優れたプロジェクトを表彰し、その知見を広めるこの活動は、個人的にも学びと成長の機会となっていると感じています。

2023 Future50 ｜ 世界を変える50人の若き新進リーダー

2020年にスタートしたPMIのFuture50は、未来を創造し、イノベーションを加速させる35歳未満のライジング・リーダー50名を表彰するプログラムです。世界中から選考された次世代リーダーは、アイデアを現実に変え、イニシアティブを推進するチェンジメーカーとして傑出した活動をされている逸材揃いです。Future50受賞者はこちらのリンクからご覧ください。
https://www.pmi.org/future-50/

2023年度は、日本支部が推薦した松久直司氏（東京大学生産技術研究所准教授）が世界をリードするパイオニアの一人として選ばれました。松久氏は伸縮性の高い電子材料および、それを用いたウェアラブルデバイスの研究・開発の分野で、卓越した成功を収めています。特に、これらはヘルスケアや電子人工皮膚への活用が期待されており、松久氏自ら異分野連携が必要となる大規模で不確実なプロジェクトを推進されています。技術的なノウハウのみならず、パワー・スキルと呼ばれる協働的リーダーシップ、革新的なマインドセット、信頼関係を築く能力などを兼ね備えた、まさに未来を担う次世代リーダーといえます。松久氏には2023年11月開催のPMI Japan Festa 2023でご登壇いただきました。

松久氏の活動内容は以下のリンクからご覧ください。
東京大学先端科学技術研究センター松久研究室：
https://www.naojimatsuhisa.com/



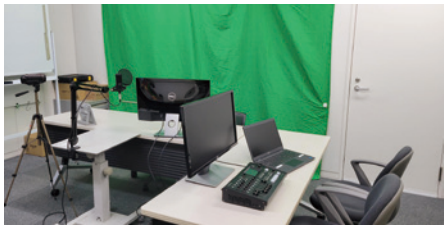
PMIはより良い未来を目指し挑戦する次世代リーダーを今後も支援し続けます。

配信ルームの設置について

2020年春に新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、日本支部の全てのイベント、セミナーがオンライン開催になりました。大規模なセミナーでは日本支部事務所内のセミナールームを利用し、オンライン配信および録画用機器を設置して運営を行ってきました。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が第５類へ移行されたことに伴い、日本支部内の部会定例会やセミナーがコロナ禍前のように事務所内セミナールームで会場開催され始めました。

今後もセミナールームの利用拡大が予想される中、引き続きオンライン配信も並行して運営できるようにするため、2023年9月に事務所内に専用の配信ルームを設置しました。配信ルームは簡易防音設備となっており、Japan Festa 2023のオンライン配信から利用を開始しています。

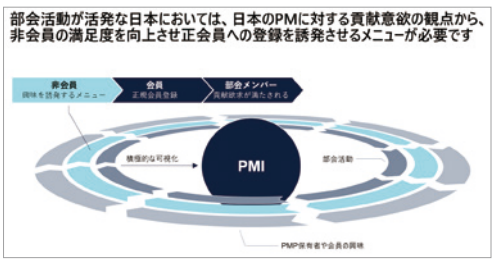


Webサイトのリニューアル

会員の皆さまにとって利用者視点で活用しやすく、欲しい情報に素早く辿り着くことが出来る、そして会員の魅力を発信することで新たな会員を増やすことを目的として、2023年1月に日本支部のWebサイトをリニューアルしました。

コンセプトは、ボランティアの皆さまによる活発な部会活動という特徴を活かした「顧客体験」。これまで積み上げてきた活動の歴史情報を維持しつつ、会員個人や部会にフォーカスしたコンテンツを多数用意し、目先の変わる新鮮な内容にしたい、そう考えました。非会員の方々が新サイトをご覧になった時、発信されるコンテンツを通じて部会活動に興味を持ち会員になり、さらには部会活動への参画につながること。会員の方々が新しい自分を発見し、共に成長していける媒体になること。それがWebサイト・リニューアル・プロジェクトチームの思いでした。

プロジェクトチームメンバーは、開発ベンダーと共に進捗会議や課題対応を行いつつ、新しいプロセスやルールを反映した運用設計を進め、企画・構想からコンテンツの作成に至るまで約1年をかけ新サイトが完成しました。サイトのメニューやデザインは、作り手が会員だからこそ欲しかった構成とコンテンツ、そしてそこで得られる価値を十分に体感いただける作りとなっています。新しい自分の発見や活動発信の場として新しいWebサイトをぜひご活用ください。



新しいWebサイト検討時のコンセプト

2023年のトピックス

2023年Region9ミーティング 参加報告

PMI日本支部 理事　永合 由美子

2023年4月22日～23日、Region9（北東アジア地区：台湾、香港、韓国、モンゴル、日本）の各支部代表が台中に集まり、PMI本部や各支部の状況を共有するとともに、協力して取り組むべき課題を議論しました。

私は初参加でしたが、参加された皆さんの温かい雰囲気で、Family感を味わいながら有意義な時間を過ごしました。

各支部の事情が多様であることを目の当たりにし、大変興味深かったです。日本支部は世界でも有数の規模を誇り、安定した財政基盤を持ち活動も活発ですが、やや年齢層が高くなっています。これに対して、他支部では若年層や女性が多い会員構成となっているものの財政的には赤字の支部もあるなど、運営の難しさも改めて知ることとなりました。

内容面では、台湾支部のSDGs関連の活動（特に子供向けの活動）や行政とのコラボレーション、香港支部の大学との協業など、日本支部としてもぜひ見習いたいと感じた活発な取組を知ることができました。

本ミーティングで得たネットワークを強化し情報交換を重ねながら、今後視野を広く持った活動を展開できればと考えています。

AP/SA LIM 2023

PMI日本支部 理事　松本 弘明

2023年7月に『2023 Asia Pacific/South Asia Leadership Institute Meeting』（AP/SA LIM）が開催されました。AP/SA LIMは、アジア・パシフィック/南アジア地域各支部の理事などボランティアリーダーが集いPMIの新たな戦略の展開や、各支部運営に関するノウハウの共有、各支部リーダーとのネットワーク構築を行うイベントです。

開催期間：2023年7月27日（木）～7月30日（日）
開 催 地：インドネシア バリ島
参加人数：130名＋スタッフ27名
参加支部：32支部

多くのセッションが行われ、「若手・学生領域に対するエンゲージメント」、「カルチャー・バリュー・ワークショップ（PMIの文化的価値観）」、「支部会員・コミュニティーメンバーとのエンゲージメント」、などの分野で事例共有やプレゼンテーションとディスカッションが行われました。

日本支部からも、法人スポンサー制度や研究会・コミュニティ活動、マイクロクレデンシャルを活用したPM教育に関するプレゼンテーションを行いました。

日本支部の活動報告を通して支部のビジビリティ向上と、今回特にフォーカスされた「PMIの文化的価値観」を日本支部にも取り入れ、さらなる支部活動の活性化に努めていきます。

PMI日本支部からの参加者

PMI Global Summit 2023

PMI日本支部 理事　中村 亜子

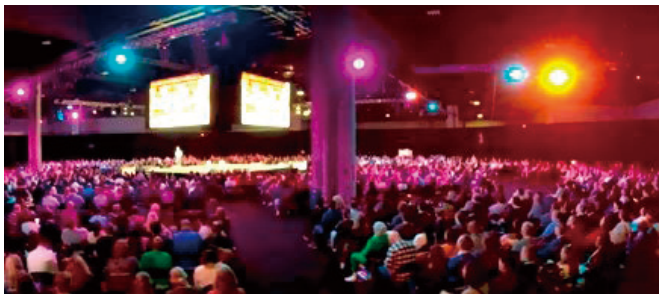
PMI Global Summit 2023が10月25日～28日に米国ジョージア州アトランタにて開催されました。今年の参加人数は3600＋人。プロジェクトマネジメントに携わる世界中の人々が一堂に会する大イベントです。講演セッション数は127、日本からは現地でお目にかかっただけでも6社/団体、26名で北東アジア地域の中で最多でした。また、会場では北米を中心に54のスポンサー（企業：48社、大学：6校）で構成される大規模な展示ブースも見ものでした。

今年の中心テーマは、やはりとも言うべき「AI」。基調講演、個別セッション共にAIに関する話題が豊富な一方で、よりビジネス視点に重きを置いたPMOや、AIの台頭を背景に一段と重要性が高まるとしてパワースキルも熱を帯びていました。

展示ブースもAIに関するものが多く目立ちました。展示と言うと、「AIを使ったプロジェクトマネジメントツールや教育」が思い浮かびますが、今年のGlobal Summitではそれに留まることなく、AIロボットやVR/ARも駆使した映像技術などエンターテイメント性も高かったのが印象的でした。リアル開催だからこそできる新たなテクノロジー体験は参加者の好奇心を刺激していたようです。

世界中どこにいてもオンラインでセッションを視聴できる時代に、敢えてリアル参加することは何が違うのか？「プロジェクトマネジメント」という共通言語で結ばれた世界中の人々と対面し、挨拶を交わし、意見や課題（悩み）を共有することは、たとえ初対面であっても一体感が生まれ、また刺激にもなるものです。

Global Summit 2023のオープニング挨拶でPMI本部CEOのPierre Le Manh氏が発したメッセージ、「PMI is already



the HOME for Project Professionals worldwide.」がまさにそれだと感じます。PMIがプロジェクトマネジメントに携わる人々のコミュニティ拠点であることを実感するサミットでした。

日本支部では、会員の皆さんをはじめ、日本でプロジェクトマネジメントに携わる方々にPMI Global Summitに参加し体感していただきたいと考えています。そのきっかけになれるよう、これからも世界のプロジェクトマネジメント動向や皆さんにとって有益で、「おもしろい！」と思っていただけるような情報発信や活動に取り組んでいきます。

マンガで学ぶプロジェクトマネジメント

標準推進委員会では、2022年より「PMIの標準をより広い読者層に！」を合言葉に、『マンガで学ぶプロジェクトマネジメント』と題して、マンガ配信を行っています。主人公の若手PM：ケンタが抱えるプロジェクト等に関するさまざまな問題を、ケンタが飼っているやたらビジネスに詳しい小鳥：ピーちゃんが、鋭い洞察・絶妙なアドバイスで（時に“得意顔”も含めたコミカルなタッチで）解決の糸口を示唆するシリーズとして、これまで『PMBOK®ガイド』の原理原則を中心に、ポートフォリオやプログラムといった関連するコンテンツを配信しています。

テーマ別で一話完結型のため、また、通勤時間やお昼休み等の隙間時間で読み切れる分量のため、現役PMの方は元より、将来PMを目指す方・若手PM等のプロジェクト活動に馴染みのない方にとっても、読みやすく（周りから広めやすく）親近感の醸成に一役買っています。マンガは日本支部公式サイトで掲載するとともに、YouTubeで吹替え配信、会員向けメールマガジンやSNS等で広報しています。

2024年度も引き続き、新たなテーマで続編を配信予定ですので、楽しみにお待ちください！

COVID-19対応

新型コロナウィルス感染症の感染症法上の位置付けが2023年5月8日に5類に移行し、感染対策の実施は個人、事業者の判断に委ねられることになりました。引き続き基本的感染対策は推奨されておりますが、徐々にマスク着用者は減少し、経済活動や社会活動も正常化に向かいました。一方でインフルエンザ等の感染症が流行し、基本的感染対策の有効性を実感することになりました。

日本支部の活動は、基本的感染対策を推奨しつつも個人の判断を尊重する運営に切り替え、2023年後半には数十人規模の対面イベントもいくつか開催しました。PMI本部および、PMIアジア太平洋が主催するイベントにも積極的に参加しました。

オンライン会合やオンデマンド視聴が定着してコロナ以前の対面形式に戻ることは想定し難い状況ですが、対面ネットワーキングに対する要望が高まっており、実効的なコミュニケーションの充実に向けて、今後も新たな運営形態を探求していきます。

中期3か年計画

2023-2025中期計画の進捗確認

【2023年度の施策進捗状況】

2022年に2023-2025の中期計画を策定し、戦略委員会を中心に戦略施策の実行を行ってきました。前の中期計画の実行期間はコロナ禍での厳しい制約の下で目標以上の活動を進めることが出来ました。新たな中期計画は支部の課題について大きく変えることなく、継続して課題を解決するための新たな施策を追加しての改定となりました。

2023-2025中期計画の初年度となる2023年は、戦略委員会の強いリーダーシップの下にアクティブ・メンバーや事務局、理事の支援により、多くの新たな施策が着実に始動し、支部活動を充実させることができました。

また、創立25周年のテーマである「これからの四半世紀を創っていくための機会となる施策を推進する」といったことも、新たな施策を開始するための礎になったものと考えています。

以下、戦略委員会や創立25周年事業として新たに開始した施策を列挙しますが、これらにより中期計画施策の早期の立ち上げを進めることができたと考えています。

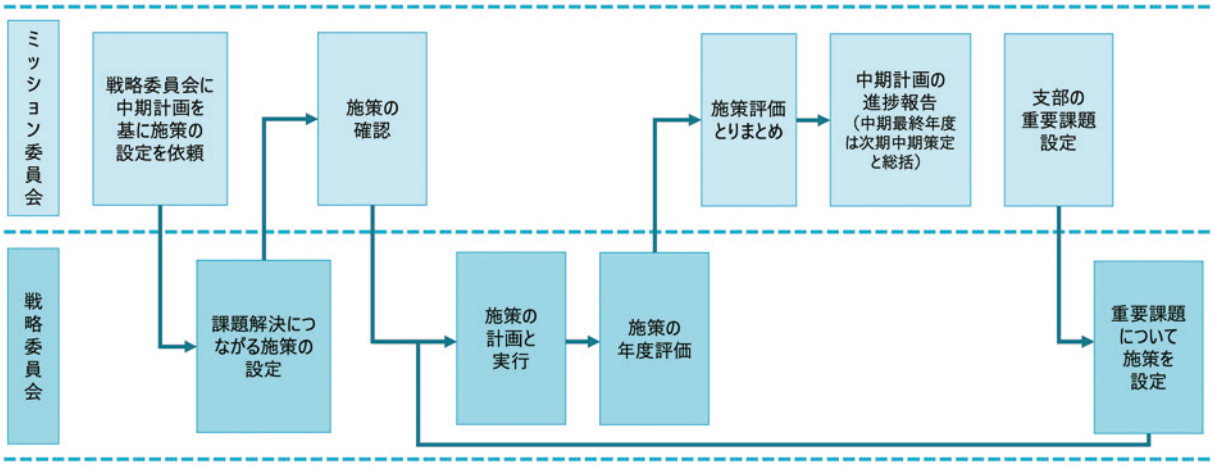
- 標準類の読者層を拡大するため、漫画などを活用し情報を発信
- 地域コミュニティの立ち上げ
- 行政スポンサーイベントの開催
- PM Award対象プロジェクトの多様化による応募の拡大施策
- 若手コミュニティの立ち上げ
- PMoA(Project Management of Arts)の取組み開始
- 学習に寄与する動画の制作
- マイクロクレデンシャル共同WGへの協力
- 会員区分の追加

2024年度には本部の戦略が新たに発信される予定であり、支部の戦略としても取り込む内容や新たな施策の立ち上げも考えられます。

【支部施策の策定とモニタリングプロセス】

支部の中期計画施策に関しては、以下のようなプロセスを実行し、ビジョン・ミッションの達成に向けて進めています。

ミッション委員会にて中期計画の策定と計画の進捗確認を実施し、戦略委員会は中期計画を基に委員会ごとの施策を設定し実行します。また、ミッション委員会は支部の内外環境から重要課題を抽出し、2024年度以降に戦略委員会に対して施策の計画と実行を依頼します。



【中期計画 2023年-2025年】

ミッション

PMI日本支部は、会員がプロジェクトマネジメントを通じて、社会、組織、個人の価値を実現することに、持続的に貢献する。

ビジョン

プロジェクトマネジメントを理解し、使いこなすことがすべての世代の基礎スキルとして認知されている。

ミッションとビジョンを実現するために、以下の方針で中期計画に取り組む

1.「個人のライフステージ」に応じた価値の実現を訴求する。
2. 支部から個人へ、個人から組織・社会へと、「プロジェクトマネジメントの有用性」の伝搬が、サイクルとして好循環するよう取り組む。

ミッションとビジョンの実現に向けて、中期計画では以下の主要課題に取り組む

1. 多様な会員ニーズに応じた魅力ある価値の提供
2. プロジェクトマネジメントの社会での認知度向上
3. 迅速な意思決定とタイムリーな施策実現ができる支部運営体制の確立

各戦略委員会の課題解決施策

掲げた3つの課題に対して、2023年度に新たに開始した施策は以下のとおりです。

課題1. 多様な会員ニーズに応じた魅力ある価値の提供

新たに開始した施策

番号	対象	施策	ステータス	推進主体
1-1	会員、非会員、スポンサー	新WEBサイトの活用による価値ある情報提供	継続	会員サービス委員会 PMコミュニティ活性化委員会
1-2	会員	PMIの新たなサービスやプロダクトを評価し、日本に適用できるものを紹介する	継続	国際連携委員会
1-3	会員	標準類を評価・選択し、日本語版を提供する	継続	標準推進委員会
1-4	会員	セミナー等の適切な手段により標準類を広める	継続	標準推進委員会
1-5	地域（会員・非会員）	地域における会員・非会員へプロジェクトマネジメントの価値提供	継続	地域サービス委員会
1-6	地域（会員・非会員）	地域活動の正式コミュニティ化（PMIJの組織として）を進める	新規	地域サービス委員会 PMコミュニティ活性化
1-7	支部会員・見込み会員・アカデミックスポンサー・法人ス	社会人向けにリカレント教育、リスキングのコンテンツ及び実施基盤としてのプロジェクトマネジメントの啓発	継続	教育国際化委員会 （組織拡大委員会）
1-8	アカデミックスポンサー	アカデミックスポンサー同士の意見交換の場の提供	継続	教育国際化委員会
1-9	法人スポンサー	法人スポンサーの満足度の向上を行う	継続	組織拡大委員会
1-10	非会員	若手コミュニティの創設	未着手	組織拡大委員会
1-11	アクティブメンバー	支部会員のリーダーシップ育成	継続	PMコミュニティ活性化委員会
1-12	アクティブメンバー、支部会員、見込会員	会員ニーズ把握と情報発信	継続	PMコミュニティ活性化委員会

課題2. プロジェクトマネジメントの社会での認知度向上

新たに開始した施策

番号	対象	施策	ステータス	推進主体
2-1	ATP	ATPとの関係強化	未着手	組織拡大委員会
2-2	非会員	個人会員の拡大（全般）	継続	組織拡大委員会
2-3	若手層 （会員・非会員）	若手層に向けたプロジェクトマネジメントの訴求	継続	組織拡大委員会
2-4	非会員・スポンサー	新WEBサイトを活用し情報提供/問い合わせ/場の提供する	新規	会員サービス委員会 ※新たな運営体制の確立
2-5	会員・非会員・スポンサー	SNSを活用したPMI情報の展開	継続	環境構築：会員サービス委員会
2-6	グローバル	グローバルでのプレゼンスを向上させる	継続	国際連携委員会
2-7	会員・非会員	標準類の読者層を拡大する	新規	標準推進委員会
2-8	地域（会員・非会員）	地域コミュニティの活動拡大	継続	地域サービス委員会
2-9	行政・教育機関（大学、高校等）・法人スポンサー	地域での産学官連携によるプロジェクトマネジメントの価値提供	新規	地域サービス委員会　教育国際化、組織拡大など連携
2-10	地域行政	行政へのプロジェクトマネジメント普及・行政スポンサーの増加	新規	地域サービス委員会　組織拡大委員会など連携
2-11	アカデミックスポンサー・学生・生徒	学生向けのプロジェクトマネジメント概念の普及	継続	教育国際化委員会
2-12	学生・生徒・法人スポンサー	学生と企業とのコラボレーションによる双方への魅力創出	新規	教育国際化委員会　組織拡大委員会
2-13	法人・非会員	法人向け施策を充実させて法人スポンサーや会員の拡大を進める	継続	組織拡大委員会
2-14	法人・非会員	他団体との連携によるプロジェクトマネジメントの普及	継続	組織拡大委員会
2-15	企業・団体・非会員	PMAwardを通じてプロジェクトマネジメントの社会での認知度向上	未着手	組織拡大委員会

課題3. 迅速な意思決定とタイムリーな施策実現ができる支部運営体制の確立

重点施策と共にミッション委員会にて議論を続け、課題解決を進めます。

2023年度は、重点施策の洗い出しとそれを担当する戦略委員会の検討を行いました。ミッション委員会タスクに関しては、新たな会員区分の増設や支部サービスカタログの作成などを行いました。支部運営体制に関しては、2024年度に検討を開始します。

PMI標準

【日本支部で扱っているPMI標準類】

PMIが発行する標準類には、PMBOK® ガイドなどの基本標準、実務標準とフルームワーク、実務ガイドの３種類があります。日本支部ではPMIが発行する標準類のうち、日本の読者のニーズが高いと考えられる書籍を選定し、日本語化し販売しています。基本標準としては、主にプロジェクトマネジメントに関する知識やプラクティスをまとめたものであり、PMBOK® ガイド第７版、ポートフォリオマネジメント標準第４版、プログラムマネジメント標準第４版、組織のプロジェクトマネジメントOPM標準、ビジネスアナリシス・ガイド、ポートフォリオ、プログラム、プロジェクトにおけるリスクマネジメント標準などがこれにあたります。実務標準とフレームワークは、標準内で紹介されているツール、テクニックまたはプロセスなどについて、プロジェクトの実践者が実務として利用するための詳細が記述されたものとされており、プロジェクトマネジャー・コンピテンシー開発フレームワーク第３版とワーク・ブレークダウン・ストラクチャーWBS実務標準第２版などがあります。また、実務ガイドは、基本標準では表現できない実務的なサポート情報や手順を提供するものとされており、プロセス群：実務ガイド、ビジネスアナリシス実務ガイド、アジャイル実務ガイドなどがあります。

【近年のPMI標準の傾向】

近年のPMIの標準類はプロセス志向から原理・原則志向に、予測型から適応型までの幅広いアプローチに対応し、プロジェクトだけではなく、プログラムやポートフォリオまでの各レベルに対応するように作られていること、ビジネスや変革が意識されるとともに、特に最近はAIのプロジェクトマネジメントへの影響を考慮しようという動きも目立っています。開発チームやレビューチームの組織やドラフトへのレビューを世界中の識者から求める一方、AIなど世の中の趨勢をいち早く取り入れて最先端の実務に役立つ標準類を出していこうという姿勢がうかがえます。

PMIの標準類の中で最も広く読まれているのは、もちろんPMBOK® ガイドで、2023年はPMBOK® ガイド第７版日本語版は3,000部以上が販売されました。内容はご存知の方も多いと思いますが、PMBOK® 第６版までは予測型を基盤としてプロセスを中心とした記述だったのに対し、第７版ではプロジェクトマネジメントの原理・原則とプロジェクト・パフォーマンス領域を基盤とした記述に変わり、PMBOKリリース以来初となる、全面的刷新がなされました。予測型から適応型までのあらゆるアプローチに当てはまる内容となり、アジャイルなどのアプローチでプロジェクトを行う方々を含め、新たに多くの読者層の手に取られることとなりました。

基本標準

実務標準とフレームワーク

PMI本部発行 原書
（2022年10月発行）

PMI日本支部発行 翻訳書
（2023年12月4日 発行）

【待望の書籍『プロセス群：実務ガイド』】

日本支部では、2022年10月にリリースされたプロセス群：実務ガイドを2023年に翻訳・制作し12月4日に販売開始しました。このプロセス群：実務ガイドは、その名の通り、プロジェクトマネジメントのプロセスを５つのプロセス群と49のプロセスで説明するもので、PMBOK®ガイド第６版までで見慣れたインプット、アウトプット、ツールと技法による記述が引き継がれています。第７版がリリースされた際、「プロセスの記述が無くなってしまい、プロジェクトをどう進めるべきか具体的なよりどころが無くなった」という当惑の声が一部に聞かれましたが、そのプロセスを改めてまとめたものが実務標準となってリリースされたのです。依然として非常に多くのプロジェクトが予測型や予測型を基礎としたハイブリッド型のアプローチをとっており、プロジェクトマネジメントにおいてプロセスが不要になったわけでは全くありません。PMBOK®ガイド第６版のプロセスに関する後継ドキュメントとも言え、PMIもプロセス群：実務ガイドはPMBOK® ガイドの最も重要な付属書と位置付けています。まさに多くの方が待ち望んだ実務ガイドなのです。是非、多くの読者に手に取っていただきたいと思います。

【標準セミナー】

日本語化した標準類の販売開始に合わせた出版記念セミナーの他、標準類を紹介する標準セミナーを随時開催しています。2023年は「PMIビジネスアナリシス・ガイド」など５回開催しました。

個人会員制度

➢ 会員制度のメリット

プロジェクトマネジメントに関して体系化されたアプローチと方法論・事例に関する知識を深く理解するために、PMP® などの取得・維持は極めて有効です。日本支部のメンバーになることで、そのための強力な支援が受けられます。

◆プロジェクトマネジメント実務者の方には

他社プロジェクト・マネジャーとの交流、PMI関連資格保持・更新のための情報収集のほか、ベストプラクティスやプロジェクトマネジメントの近況・見通し、PMI関連の研究状況の把握などにより、プロジェクトマネジメントに関する自己啓発につながり、実務能力を向上させる機会となります。

◆経営者の方には

プロジェクト・マネジャーの育成、ベストプラクティスの研究結果や方法論の実践により、経営や組織の能力を高める機会となります。

◆一般の方には

今話題のあらゆる分野のプロジェクトマネジメントについて、専門的な知識・情報取得のチャンスとなります。

➢ 日本支部会員の特典

1.セミナー受講費の割引

2023年も有料セミナーの多くをリモートで実施しましたが、新型コロナウイルス感染症が2023年5年5月に「5類感染症」に移行したことに伴い、年の後半からは現地セミナーの開催がいくつか復活しました。

日本支部主催のフォーラム、Festa、月例セミナー、アジャイル関連、デザイン思考、PMI標準など各種セミナー（次ページの図参照）に割引料金で参加いただきました。

また、ほとんど全ての有料セミナーについてはPDU、ITC実践力ポイントの受講証明書を発行しています。

2.各種委員会、研究会活動への参加

各種の委員会、研究会、プログラム、コミュニティ等にメンバーとして参加（すべてZoomやSlackなどのコミュニケーションツールを活用）することで、プロジェクトマネジメントに関わる技術研鑽、異業種の方々と情報共有・交流をしながらPDUも取得できます。また、これらの活動の成果は毎年夏に開催する日本フォーラムで発表されています。2023年度のフォーラムでは45ものセッションがオンデマンド形式で7週間にわたり提供され多くの方々に受講いただきました。

〔戦略委員会〕

①地域サービス、②PMコミュニティ活性化、③組織拡大、④国際連携、⑤教育国際化、⑥標準推進、⑦会員サービス

〔研究会〕

①IT、②IPPM、③ポートフォリオ・プログラム、④PMタレントコンピテンシー、⑤組織的PM、⑥リスク・マネジメント、⑦PMO、⑧PMツール、⑨PM教育、⑩プロジェクトマネジメント、⑪ビジネス・アナリシス、⑫ソーシャルPM、⑬アジャイル、⑭ステークホルダー・エンゲージメント、⑮PM翻訳・出版、⑯IRC、⑰SDGsスタートアップ

〔プログラム〕

①PMBOK® セミナー、②セミナー

〔プロジェクト〕

①PMI日本フォーラム、②PMI Japan Festa

〔関西ブランチ〕

①運営委員会、②PM実践研究会、③医療PM研究会、④IT上流工程研究会、⑤定量的PM事例研究会、⑥PM創生研究会

〔中部ブランチ〕

①運営委員会、②PMサロン、③地域ソーシャル・マネジメント研究会

〔コミュニティ〕

①女性、②AI@Work、③DA、④建設、⑤未来創造

3.新規入会の方へのオリエンテーション

日本支部に入会して間もない方を対象に無料のオリエンテーションを開催（年間3回）し、PMI本部や日本支部の概要、部会活動状況等を紹介しています。また、「部会紹介セミナー」を開催（年間2回）し、会員の方々の部会活動への参加を啓蒙しています。

4.プロジェクトマネジメント関連書籍の割引購入

ホームページの日本支部オンラインショップを通じて『PMBOK® ガイド第7版』、『ワーク・ブレークダウン・ストラクチャー（WBS）実務標準』、『プロセス群：実務ガイド』などのプロジェクトマネジメント関連書籍を支部会員価格でご購入いただけます。

入会手続き

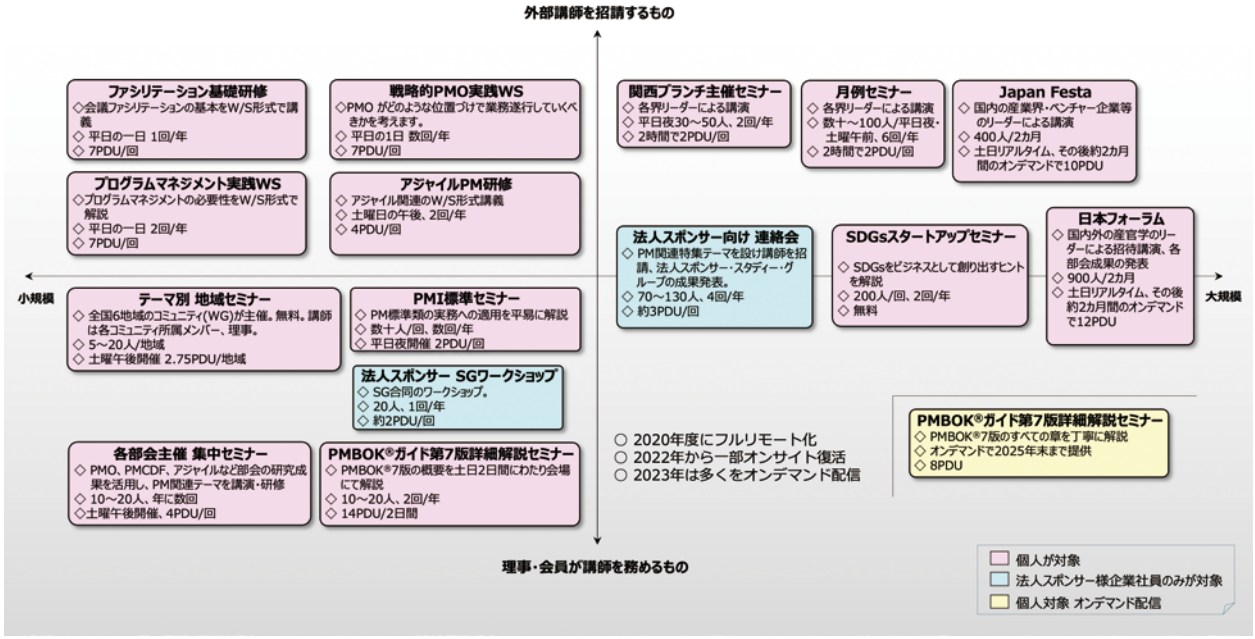
日本支部に入会いただくには、まずPMI本部に入会いただく必要があります。PMI本部ウェブサイトからオンラインサービス登録を行ってください。日本支部会員登録も同サイトから行えます。決済にはクレジットカードがご利用いただけます。なお、一部に消費税が加算されますのでご注意ください。

日本支部会員としてのさまざまな特典を活用しつつ、プロジェクトマネジメント・スキルの研鑽をお積みください。

※消費税対象

PMI 本部		PMI 日本支部	合計
入会費(※)	年会費(※)	年会費	
10ドル（入会時のみ）	129ドル	50ドル	●入会時は189ドル ●以降1年ごとに179ドル

PMI日本支部が主催するセミナーの体系



〔参考〕 日本支部会員数、日本国内における PMI関連資格保有者数の推移

（各年12月末現在）	年　度			
	2020	2021	2022	2023
PMI日本支部会員	4,947	5,026	5,704	6,133
CAPM®資格保有者	234	342	484	601
PMP®資格保有者	39,850	40,191	42,463	45,058
PfMP®資格保有者	8	10	10	16
PgMP®資格保有者	13	16	22	29
PMI-RMP®資格保有者	10	11	17	20
PMI-SP®資格保有者	5	7	7	9
PMI-PBA®資格保有者	13	18	20	21
PMI-ACP®資格保有者	163	259	374	447
DASM®資格保有者	–	13	43	56
DASSM®資格保有者	–	14	41	49
DAC®資格保有者	–	0	10	14
DAVSC®資格保有者	–	0	2	2

〔参考〕 全世界でのPMI会員数、 PMI関連資格保有者数の推移

（各年12月末現在）	年　度			
	2020	2021	2022	2023
PMI会員	652,240	685,880	661,201	707,049
CAPM®資格保有者	48,986	56,816	63,791	68,291
PMP®資格保有者	1,118,998	1,249,607	1,284,829	1,448,971
PfMP®資格保有者	940	1,161	1,340	1,708
PgMP®資格保有者	3,049	3,497	4,077	5,353
PMI-RMP®資格保有者	6,701	9,711	13,086	16,688
PMI-SP®資格保有者	2,232	2,574	2,809	3,357
PMI-PBA®資格保有者	4,483	5,385	5,984	7,314
PMI-ACP®資格保有者	39,575	48,098	52,263	59,456
DASM®資格保有者	–	2,782	4,559	5,628
DASSM®資格保有者	–	1,489	3,834	3,088
DAC®資格保有者	–	41	135	218
DAVSC®資格保有者	–	33	70	125

法人スポンサー・プログラム

法人スポンサー・プログラムとは

日本支部における「法人スポンサー」とは、組織としてプロジェクトマネジメント向上に関心を持ち、支部のミッションにご理解をいただき、その活動を支援していただける企業、公益法人および団体の集まりです。法人スポンサー・プログラムは、法人スポンサーおよび、その社員の方々へ支部が提供する各種サービスです。

法人スポンサー・プログラムのメリット

- 日本では数少ない、組織のPM部門長、プロジェクトマネジメント推進に係るご担当および関係者同士の意見交換、相互研鑽および人脈拡充の場です。法人スポンサー連絡会では、グローバル・ビジネスにおけるPMの役割やPMの技術トレンド等をご紹介し(年3回)、企業のPM部門長や上級管理者が抱える課題・ニーズに対して相互コミュニケーションや研鑽の場をご提供しています(年1回)。
- 法人スポンサー所属社員のみで構成されるスタディー・グループ(SG、月次開催)にメンバーとして無料で参加いただけます。スタディー・グループは「企業横断研究会」であり、業種、企業の枠を超えた研鑽、交流の場となっています。
- メールマガジン(毎月配信)により法人スポンサー・プログラムや日本支部主催イベントのご案内をさしあげます。また、日本支部主催イベントへの参加や日本支部で取り扱う書籍の購入に際し、特別割引が受けられます。
- 法人スポンサーとして会社ロゴ、会社名を日本支部のホームページに掲載しますので、プロジェクトマネジメントに熱心な企業として広く社会にアピールすることができます。

2023年 法人スポンサー・プログラム実績

(1)法人スポンサー連絡会

法人スポンサー連絡会は、PMおよび PM人材育成部門の方々にPM 界の最新情報をお伝えするもので、法人スポンサー様社員のみが参加いただけるものです。2020年3月以降は新型コロナウイルスの流行に鑑み全てオンライン開催としていましたが、2023年度は6月度については「会場開催＋オンデマンド配信」、12月度については「会場開催＋リアルタイム配信＋オンデマンド配信」を実施しました。

参加者は3月(申込115名)、6月(同167名)、9月(同161名)および、12月(同151名)の4回で、無料で PDU受講証明書(1.75～2.75PDU)を発行しています。

(2)SG ワークショップ

「ケースメソッドで学ぶ！プロマネの人間力と実践力 ～経験が身に付くプロジェクトマネジメントの疑似体験とは～」と題したワークショップを、ケースメソッドSGと人材育成SG合同で8月(申込20名)に開催しました。参加者は、設定されたケースの疑似体験と議論を通じて、自社内や職場のみでは得られない「他社(他者)の知見や考え」から気付きを得ることができ、プロジェクトを多角的な視点でみる訓練になります。ここでも、PDU 受講証明書(2.25PDU)を無料で発行しました。

2023年度法人スポンサー連絡会での講演実績

3月度	**特集:PMI Global情報** 講演-1　稲葉 涼太氏、藤井 新吾氏　「Asia Pacific LIM参加報告」 講演-2　麻生 重樹氏、除村 健俊氏　「Global Summit 2022参加報告」
6月度	**特集:PMO** 講演-1　西原 真仁氏、阿部 笑子氏　「日本国内企業におけるPMO実態調査結果のご報告」 講演-2　常盤 努氏　「PMOを活用した品質向上への取り組み」
9月度	**特集:人材育成** 講演-1　石井 友美子氏、平井 丈裕氏　「PMCDFチェックリスト組織での活用術」 講演-2　渡辺 由美子氏　「上級PM育成を目指したメンタリングの効果的な運営について」
12月度	**特集:PMI標準** 講演 アンリ近藤(近藤 浩)氏　「進化するPMI標準」

(3)法人スポンサー・スタディー・グループ(SG)

スタディー・グループは、法人スポンサー所属社員のみで構成される「企業横断研究会」で、企業が共通して抱える課題、対応すべき事柄について意見交換、調査研究を行っています。2023年度は延べ44社から52名の方々が3つのグループに分かれて活動し、その活動成果を12月度法人スポンサー連絡会で発表いただきました。各スタディー・グループの活動概要は下記の通りです。

◆人材育成スタディー・グループ

プロジェクト・マネジャーのあるべき人間力の強化にフォーカスし、PMCDF(プロジェクト・マネジメント・コンピテンシー開発体系)の「人間力(人格コンピテンシー)」を研究しています。2023年はプロジェクト・マネジャー の人間力に焦点を当てて実践で役立つ格言を創り、『プロマネ格言！カレンダー』として法人スポンサー・支部会員に公開しました。

◆若手PM育成スタディー・グループ

2010年のSG創設以来、「入社5年目を目途としてこれからPM になる人、PMになりたての人」に対する課題の発見、対応策について研究しています。過去に設定した3つのテーマに加え「これからの若手PM育成」を第4テーマとして、2023年はPMコンピテンシーのモダナイゼーション、具体的には第1テーマ成果物「PM特性表」の見直しを行いました。

◆ケースメソッドスタディー・グループ

“ケースメソッド”とは、参加者中心型の主体的な学びを実施するための教育手法として世界中で実践され、参加者がケース(事例)に登場する当事者になり切って疑似体験する学習手法です。2023年は日本フォーラムやSGワークショップでの振り返りを行い、新たに得られた学び・気づき・反省点などを整理し、結果を抽象化し、『ケースメソッド実践ガイド』の完成を目指して、活動を進めました。

アカデミック・スポンサー・プログラム

日本におけるプロジェクトマネジメント(PM)の発展に理解を示し、PM関連の教育を実践する国内の大学、高等専門学校、高等学校、中学校等ならびに公的研究機関を日本支部アカデミック・スポンサーとして登録しています。2023年12月末時点での登録数は52となります。

【2023年度の活動について】

2023年度の活動では、プロジェクトマネジメントおよび支部活動に関する各種情報提供の他、以下を行いました。

- ●日本フォーラムでのアカデミック・トラックの開催
- ●アカデミック・スポンサー情報交換会の開催
- ●プロジェクトマネジメント研究報告の編纂・公開

①日本フォーラムでのアカデミック・トラックの開催

2023年度は8講演をオンデマンド配信方式で提供しました。

No.	講演タイトル
A-1	北近畿における地域課題の解決による地方創生
A-2	地域と学ぶコ・デザイン ～東京理科大学 長万部キャンパスにおける 地域実践教育～
A-3	リスキリングのキーとして世界で導入が加速する マイクロクレデンシャルの最新動向とPMIアジア各国 チャプターと連携したPM教育のエコシステムの提案
A-4	PMIアカデミックリソースの紹介とPMIタレント・ トライアングルを踏まえたこれからのPM教育
A-5	中学生～大学生向けPM教育の実際とその意義
A-6	ソフトスキル(パワースキル)を育成するための アクティブラーニングとリフレクション
A-7	大学でのプロジェクトマネジメント教育の成果事例 －マイプロジェクトへの活用事例－
A-8	チェンジリーダーに必要な自己覚醒 ～ RADAF2.0モデルの紹介 ～

COLUMN

山本 智子 川崎医療福祉大学 教授、日本支部理事、教育国際化委員会、地域サービス委員会委員

オンライン会議やフォーラムでのオンデマンド発表がニューノーマルになりました。地方在住の私にとって、この利便性を享受できることは大きく、以前よりも手軽に講演を聴いたり支部の活動に参加したりできるようになりました。一方、対面で実施されたLM2023や25周年記念イベント、地域セミナーに参加してみると、しみじみ対面での良さを実感しました。ハイブリッド開催や懇親会付き対面活動をバランス良く組み込んで、地方在住の会員や学生にも日本支部の活動がさらに浸透・普及することを願っています。

②アカデミック・スポンサー情報交換会の開催

アカデミック・スポンサーの担当者である教職員の皆さまとのインタラクティブな交流機会として情報交換会を定期的に開催しています。2023年度はオンライン形式で8月と12月に開催しました。

開催回	開催日	開催内容
第1回（オンライン）	8月23日（水）	・価値創造のためのプロジェクトマネジメント教育 ・PMIの大学関係者のためアカデミックリソース・プロジェクトマネジメント教育のカリキュラム ・参加者によるグループディスカッション
第2回（オンライン）	12月13日（水）	・「プロジェクトマネジメント（PM）」×「SDGs」 ・参加者によるグループディスカッション

③プロジェクトマネジメント研究報告の編纂・公開

日本支部ではPMに関する調査・研究成果を2021年度からプロジェクトマネジメント研究報告として編纂・公開しています。2023年度は第4号を2024年3月末にJ-STAGEで公開予定です。第4号は20件の掲載申請があり、アカデミック・スポンサー校の先生方のご協力の元、編纂作業を行いました。なお、過去（第1～3号）についてはJ-STAGE（https://www.jstage.jst.go.jp/）にてご覧ください。

行政プログラム

行政スポンサー制度は法人スポンサーと同等のサービスを自治体や省庁などの行政組織に享受していただく仕組みです。2023年度は広島県福山市様、広島県総務局県庁情報システム担当様に新たに参加いただきました。また、日本フォーラムでは福山市副市長にも福山市全庁へのプロジェクトマネジメント導入について講演をいただきました。

オペレーションが中心の行政組織から、複雑な事業（プロジェクト）を担う組織となってきている地方自治体や省庁。今後も行政スポンサー向けの取組みを活発に進めていきます。

支部活動紹介サービス

非会員向け ｜ 支部紹介オリエンテーション

本活動はPMP等PMI資格の保有者・取得予定者で支部未入会者を対象に、日本支部の魅力や会員になるメリットを紹介し、新規入会を促進することを目的としています。企画・運営は組織拡大委員会メンバーが中心に行っており、2023年度は前年度と同様に2月、5月、8月、10月の4回オンライン形式で開催しました。

セミナーでは資格活用に関するTIPSや効率的なPDU獲得方法に加え、キャリアアップの場として支部活動を紹介しています。特に2023年度は、創立25周年記念事業や戦略委員会の活動なども紹介しました。

この結果、2023年度は合計150名の方にご参加いただき、そのうち39名の方が本セミナー経由で日本支部に入会されました。なお、本活動は2024年度も継続予定です。

法人向け ｜ 法人スポンサープログラム紹介セミナー

本セミナーは日本支部の活動に興味・関心がある法人担当者を対象に2022年度から定期的に開催しています。セミナーでは日本支部および、法人スポンサープログラムのご紹介のほか、法人スポンサー連絡会にて好評だった講演をアレンジして提供し、実務に役立つ情報提供も行っています。

2023年度は2月22日（水）にオンライン形式にて開催し、30名の企業担当者にご参加いただきました。当日は「新たなPM層の開拓」をテーマに、女性PMコミュニティ（講演①）、未来創造プログラム（講演②）のご紹介、そして法人スポンサースタディグループ（SG）活動報告等を録画講演にて視聴いただきました。

会員向け ｜ 新入会オリエンテーション

日本支部に入会したものの有効活用法がわからない方向けに、年３回新入会オリエンテーションを開催し、PMI本部、日本支部、支部での部会活動の3つを１時間でご紹介し、1.0PDUの受講証明書を発行しています。また、部会活動をより詳しく知りたい方向けには、Zoomのブレイクアウトセッションを利用した個別説明会（ネットワーキング）も実施しており、先輩支部会員とのコミュニケーション環境も提供しています。参加は無料としており、新規入会された方は気軽に参加いただいています。

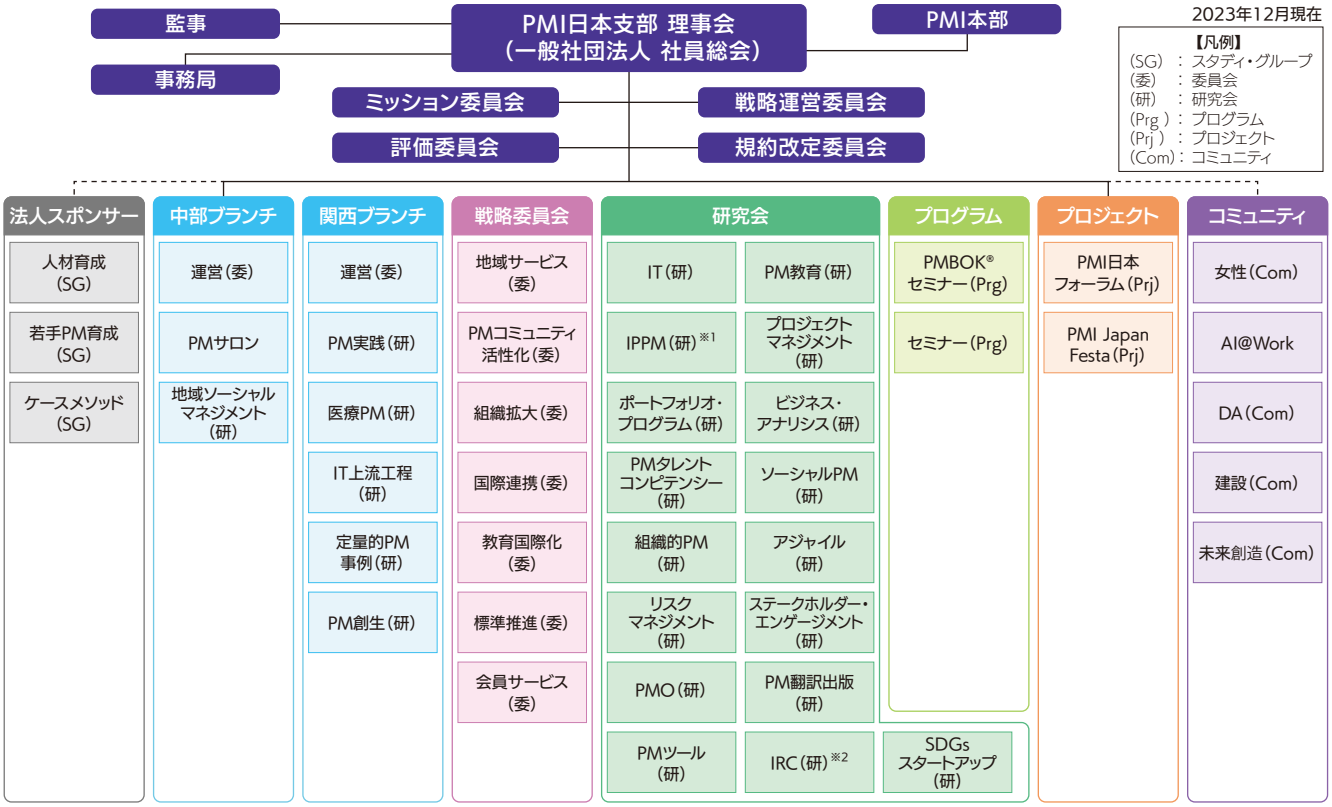
会員向け ｜ 部会紹介セミナー

日本支部会員の皆さまの中には、部会に興味はあるものの参加を躊躇される方々が多くいらっしゃいます。そこで、部会の実態を知っていただくことを目的に、2023年はzoomを用いたオンラインでの部会紹介セミナーを6月・12月の2回開催し、各回3つの部会を特集しました。

セミナーは二部制で、第一部では部会活動全般のご説明と各部会メンバーからのプレゼンテーション、第二部では興味がある部会の部屋（ブレイクアウトルーム）に入り直接メンバーと交流する、という構成です。開催後の参加者アンケートでは各回高評価をいただいており、当日プレゼンした部会について一定数の方々が後日具体的な活動を見学したり、直接入会さたりされています。

PMI日本支部の組織

組織構成



※1 IPPM(研)：統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント研究会
※2 IRC(研) ：International Relations Community 研究会

ミッション委員会

ミッション委員会では支部のミッションやその在り方を検討し、理事会に提案しています。中期計画の策定やモニタリングを行うと共に支部の適切な運営・組織を検討する役割も担います。2023年は、2023年度から2025年度の次期中期計画の進捗を評価しました。支部の重点施策に関しても議論を行い、次年度につなぐテーマを洗い出しました。また、改善や新たな企画に関しても理事会に提案を行い、新会員区分の設定や支部のサービスカタログの整備を行いました。

戦略運営委員会

日本支部では毎年すべての部会で年間計画を立案しています。戦略運営委員会では各部会と調整し年間スケジュールを作成した後、その適正を確認しています。毎月開催される戦略運営委員会では支部戦略を担う各戦略委員会の横連携を実施して、各部会から上程される審議・報告事項をとりまとめ、理事会へ起案して円滑な運営に寄与しています。重要な施策は、PM本部予算を獲得して、当該施策内容や予算額の調整を本部との間で実施しました。

評価委員会

評価委員会は、事務局長を含む事務局職員の給与・賞与について、事務局長の提案を受けて、同様な非営利団体の状況、日本支部の財務状況、職員間のバランス・貢献状況などを勘案して理事会に提案しています。また、会員・部会表彰者の選考を行い、理事会に提案しています。

2023年度は、人事評価制度に基づく事務局員評価を実施した他、インフレに対応した給与水準の見直しを実施しました。

規約改定委員会

規約改定委員会では、2023年の社員総会の議事録承認の見直しに取り組みました。これに伴い、代表理事の規定、議事録承認者の見直しを反映した支部定款改定案を作成し、PMI-APと折衝し承認を得ました。

また、理事改選に向け、理事選挙プロジェクトを立ち上げ、理事選挙振返りWGの指摘を踏まえ、理事改選のプロセスを進めました。

監事

日本支部はコロナ禍を経て、この数年正副会長および理事によるマネジメント体制の変革や、事務局体制の強化を進めてきました。2023年度も継続して取り組み、会員数6,000人を超える組織にふさわしい運営体制が実現されつつあります。

監事の役割として、組織に欠けている部分を指摘することはもちろんですが、今後は「支部活動が会員の皆さんや社会からの期待により応えられるようになるには？」という視点も重視して監査活動を続けて行きたいと考えています。

戦略委員会

地域サービス委員会

地域在住支部会員へのサービス向上、新しい地域コミュニティの形成と活動の活性化、地域行政・アカデミック・法人スポンサーとの連携を目標に活動しています。

2023年度も継続して全国6カ所での地域セミナーの会場開催、地域内での勉強会、団体への講師参加、交流会等を実施しました。年末には各地域からメンバーが集まったFace to Faceの会議も開催でき、親交を深めることができました。これらの活動を通じて徐々にアクティブメンバーも増えてきています。

従来の活動に加え、今後も新たな地域で会員同士を結び付ける活動を進めていきます。

PMコミュニティ活性化委員会

日本支部会員のコミュニティを活性化するための交流の場や情報を提供し、日本支部の価値向上を目的に活動しています。2023年度は部会リーダー交流会や新入会オリエンテーション、部会紹介セミナーなど、年間通じて定期的に部会コミュニティを活性化する施策を企画・開催しました。コロナ禍も明けて今後さらに部会活動の魅力や価値を発信し、アクティブメンバーのさらなる拡大・価値向上に向けて取り組んでいきます。

組織拡大委員会

組織拡大委員会は、日本支部会員増を通じて日本のPMコミュニティ発展に貢献する目的で活動しています。2023年度は個人会員、法人スポンサーとも過去最多を更新し、市場へのアプローチが支部活動の充実につながった、実りある一年でした。PM Awardではファイナリストによる講演セミナーの参加者・投票者がともに過去最多を更新しました。アーリーキャリア向けでは、未来創造プログラムとコミュニティの活動基盤の連携が充実したほか、NPO向けプログラムも他分野への応用が見えてきました。

国際連携委員会

国際連携委員会は、PMI本部やアジア太平洋オフィス(AP)、他支部との連携強化を図り、日本支部のプレゼンス向上や支部活動の充実に取り組んでいます。2023年度はPMI-AP主催の海外イベントで、日本支部運営のベスト・プラクティスを紹介し好評を博しました。加えて、Future 50への応募や、Chapter Leadership Impact Awardへ端山会長を推薦し、いずれも受賞することが出来ました。また、トルコ支部の災害チャリティー・イベント支援等を通じて他支部との連携にも努めています。

教育国際化委員会

教育国際化委員会はジェネリックスキルとしてのPM教育の大学、高専、高校、中学などの教育機関への普及を推進しています。主な活動は、日本フォーラムのアカデミックトラックの企画・運営、アカデミックスポンサー制度の運営、アカデミックスポンサーとの交流会の企画・運営等です。

2023年度はこれに加えて、中学高校生徒や大学生向けのワークショップの実施やPMIアジア太平洋オフィス(AP)との連携活動を行いました。

標準推進委員会

標準推進委員会はPMIの標準書、実務ガイド等を調査、選択、邦訳し、日本のPMコミュニティへ提供することをミッションとしています。2023年は、PMBOK® 第7版オンデマンドセミナーの他、標準セミナーでビジネスアナリシス・ガイドなど5つの標準類を紹介し、延べ約700名に参加いただきました。また、より多くの方々に関心を持っていただくためマンガでの標準紹介(5話)を発信するとともに、地域セミナーや法人スポンサー連絡会でもPMIの標準類を紹介しました。

会員サービス委員会

会員サービス委員会はPMI本部の動向をふまえて支部活動全体を俯瞰し、会員のみなさまにさまざまなサービスを提供する役目を担っています。2023年度は1月に日本支部のWEBサイトリニューアルを皮切りに、前年度に引き続き日本フォーラム、Japan Festa、各種セミナー開催、メルマガの発行等を中心に活動しました。

4つのWG(①日本フォーラム/Japan Festa/月例セミナー開催、②情報発信としてのメールマガジンの発行、③会員サービス基盤の整備、④時流や会員の皆さまのニーズを考慮したセミナーの企画、開催)を通じて、会員のみなさまにPMI本部情報や日本支部内の活動を広く、かつタイムリーに、そしてわかりやすく提供することを念頭に委員一同が活動しています。

部会、スタディ・グループ、コミュニティ活動

日本支部では、プロジェクトマネジメントに関連する研究・スキルアップ・情報発信などを目的とする研究会、日本フォーラムやJapan Festaのようなイベントを企画運営するプログラムなど、多様な「部会」活動が支部会員によって運営されています。

また、法人スポンサー企業社員の有志が研究・スキルアップを目的として活動する「スタディ・グループ」、支部会員以外の方々も巻き込んだ「コミュニティ」も存在します。

部会横断活動

リーダーシップ・ミーティング LM2023

2023年9月9日（土）と10日（日）の2日間にわたり、東京都大田区蒲田にあるニッセイ・アロマスクエアビルにて「PMI日本支部リーダーシップ・ミーティング LM2023」を開催しました。

2023年で9回目となるリーダーシップ・ミーティングは戦略委員会のひとつであるPMコミュニティ活性化委員会が中心となって企画・運営しています。日本支部の各部会（委員会、研究会、ブランチ、プログラム）からリーダーやアクティブ・メンバーが参加し、今後のPMI本部や日本支部のビジョンや方向性、施策などを共有したり参加者のリーダーシップ育成を目指したワークショップを行ったりすることで、よりアクティブな部会活動を促し、PMコミュニティを活性化させることが目的です。

2023年のテーマは「次の25年後を見据えた日本支部の未来の価値を考えよう」です。創立25周年という節目を迎えた日本支部において次の25年に向けたビジョンと活動に焦点を当て、支部の中長期計画へのインプットとして提言しようとするものです。

会議初日はオープニングの端山会長の挨拶に始まり、続く基調講演では、PMIアジア・パシフィックから2名のゲストを招き、YeYoon Kim氏（PMI AP Head of Community）から「PMIの文化的価値観と行動」について、SoHyun Kang氏（PMI AP Regional Manager）からは「PMIのグローバルとリージョナル戦略」についてお話をいただきました。次に、谷口 和行氏（組織拡大委員会未来創造プログラム）より「私達が創るサステナブルな支部、そして社会」と題して講演がありました。

その後、「次の25年後を見据えた日本支部の未来の価値を考えよう」をテーマにワークショップを行いました。25年後の日本支部の価値について、時代とともに変えるべきものと変えてはいけないもの、SocialとBusinessの2軸で4つの領域に分けそれぞれ議論を重ねました。25年後のビジョンを描き、そこに繋がる具体的な施策を提言するには時間が十分とは言えませんでしたが、限られた時間の中で議論を尽くし、これらのアイデアが次年度以降の各部会の活動計画にインプットされ、支部の中・長期計画立案のための材料になることが期待されます。

コロナ禍にあっては、リーダーシップ・ミーティングはオンラインでの1日開催が続いていましたが、2023年は2019年以来4年ぶりのオンサイトでの2日間の開催となりました。参加者へのアンケート結果からもオンサイト開催に対する満足度は高く、次年度以降もオンサイト開催を継続する方向で検討していきたいと考えています。

部会リーダー交流会

部会リーダー交流会はPMコミュニティ活性化委員会が企画、運営するもので、日本支部と各部会活動に関する情報共有や部会間連携、活動の活性化を目的として年4回開催しています。2023年も12月の4回目は昨年に続きオンサイト開催することができました。

会場となったのTKPガーデンシティPREMIUM秋葉原には、海外からのゲストや地方参加者を含め70名を超える方々が集まり、全ての戦略委員会や部会から年間活動の総括をライトニングトーク形式で発表いただきました。PMIアジアパシフィックのチャプターエンゲージメントマネジャーであるYeyoon Kim氏もシンガポールから駆けつけ、各部会からの発表を熱心に聴かれていました。第2部では、同会場の別フロアにてケータリングの料理やお酒を楽しみながらの交流会が行われました。お楽しみ抽選会では、豪華景品をゲットされた方もいて大いに盛り上がり、日本支部創立25周年記念に相応しい活発な交流機会となりました。

首都圏中心の支部会員による部会活動

統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント研究会

2019年に旧EVM研究会から改編した「統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント(IPPM)研究会」は、現在もEVMを中核手段とした総合的なパフォーマンス・マネジメントを調査研究する活動を継続しています。

PMIの新標準「The Standard for Earned Value Management」の翻訳研究を継続して行っています。日本フォーラム2023では、「EVM分析のための統計手法 ～EVM固有の環境に合わせた統計手法「超」入門～」と題して発表しました。

またプロジェクトマネジメント研究報告2024に研究報告を2稿投稿しました。その他、プロジェクトマネジメントと機械学習に関する基本的な知識・技法の取得に向けての研究も継続して行っています。

ポートフォリオ / プログラム研究会

社会課題や経営課題を解決する各種アプローチの追求をミッションとし、月に一度の定例会の他、「日本人PfMP® & PgMP® 100名構想」に関連したセミナーを開催しました。

定例会では、最新の技術動向について話題を持ち寄り、これをもとにサロン的な雰囲気を楽しみながら自由闊達に意見を交換しています。2023年は、全10回の定例会議で延べ231名が参加しました。

セミナー受講者のうち計5名がPfMP® & PgMP® 資格を取得された後で研究会に入会して後進の育成に励んでいます。

研究会合宿では、人生についてポートフォリオ / プログラムマネジメント視点で熱く語り合いました。

10月に京都八瀬離宮で行った研究会合宿

PM タレントコンピテンシー研究会

PMCDF 第3版をリファレンスとして、コンピテンシー育成方法や、新しいPMの役割とコンピテンシーを探求しています。2023年度は研究会で作成したチェックリストの効果検証や、これからのPMに必要なコンピテンシーを研究しました。

2023年度は、研究会で作成したチェックリストと活用法をもとに、実際の現場で利用して効果検証を行い、導入効果をフォーラムや法人スポンサー連絡会で発表し好評を得ました。

その他にも標準セミナーの開催、地域セミナー3箇所（九州、関西、中部）での講演や、チェックリストと活用の手引きの公開など、活発に活動しました。

コロナ禍でオンライン中心だった研究会活動ですが、徐々に合宿やオンサイトでの活動も企画しながら多彩なメンバーで楽しく研究会活動をしています。

Zoomでの定例会の様子

組織的プロジェクトマネジメント研究会

OPM標準を中心に組織的プロジェクトマネジメント（OPM）の方法論やさまざまな組織論を研究し、日本の組織へのベストプラクティスの普及・展開を目指して活動しました。

OPM標準の解説セミナーは継続して実施していますが、研究会内ではOPM標準だけでなく、組織のトランスフォーメーションに関するフレームワークとして、『トランスフォーメーション・コンパス』を学んだり、経営理論とプロジェクトマネジメントの関連について議論したりしました。日本フォーラムでも、DXと組織のトランスフォーメーション、および経営理論とプロジェクトマネジメントの関係について講演しました。

リスク・マネジメント研究会

2023年度は「PMBOK® ガイド第7版」や「ポートフォリオ、プログラム、プロジェクト（PPP）におけるリスク・マネジメント標準」を中心にリスク・マネジメントとはどういうものかを調査・研究しました。

リスク・マネジメントの専門家を増やすべく6月にPMI-RMP勉強会を立ち上げ、11月には研究会内で研究フォーラムを開催しました。ここでは、生成AIによるプロジェクトのリスク特定やPPPにおけるリスク・マネジメントの全体像の把握・理解をテーマにしたWorkinng Groupの成果、個人研究活動の成果などを講演形式で共有しました（計6件）。また、マンガで学ぶプロジェクトマネジメント（リスク編）の作成に協力しました。

PMO研究会

企業や団体でのPMOの実態や取組に関する研究、情報発信を通して、日本のPMOの発展、プレゼンス向上を目指しています。2023年度は、5つのWG活動を通して、文献・事例調査やワークショップを行いました。また久々の対面での活動も実施しました。

2023年の当研究会は、オンラインでの毎月の全体月例会、5つのWG毎の月次ミーティング、日本フォーラムでの発表、部会紹介セミナーでの部会紹介、会員研究報告書作成、「戦略的PMO」ワークショップ（開催は2024年1月）に取り組みました。またリアル会合に向けた集まりの機会を設けることにも取り組みました。加えて「戦略的PMO」の電子版に関する申し出を行い、2024年1月に改めて電子版発行の流れとなりました。「戦略的PMO」で記載されている内容に、ようやく時代が追い付いてきたと感じています。「戦略的PMO」を改めて普及・定着させるべく、2024年も積極的に活動していきます。

「PMO研究会ワークショップ」（2024/1/27開催）の様子

PMツール研究会

プロジェクトマネジメントのツールと技法を研究しています。2023年は、SDGsに対応するプロジェクトにおいて、プロジェクト品質を定量的に把握し、真にSDGsに貢献する目標を設定する方法を、ビジネスモデルキャンバスを活用して研究しました。

当研究会では、参加できるときに参加し、参加できないときは無理せず欠席されることを良しとし、多くのメンバーと出会えることを大切にしています。ユーザ系の企業を中心にいろいろな立場の方々が集まっているので、新しい視点に出会えます。

2024年度には生成AIなどにより実現されるコ・パイロット機能をどのように活用すれば、プロジェクトを上手く推進できるのかについて、例えばリスクの把握といった観点から、深堀していきたいと考えています。

PM教育研究会

「プロジェクトマネジメントに関する実践的教育プログラム」を研究会のミッションに、メンバー間の知見の共有や大学への講座提供などの活動を行いました。

定例会では各自が行っているPM教育に関するさまざまな活動報告等をもとに活発な意見交換を行いメンバー間の知

見を高める活動を行いました。また、研究会としてのPM教育の実践として、本年も神奈川県内の短期大学にて一学期間の「プロジェクトマネジメント」の講義を当研究会のメンバーにて実施しました。

プロジェクトマネジメント研究会

PMBOK® ガイドを含む諸標準を調査・研究し、組織の枠を超えて本音で議論する場を提供することによって現場プロジェクトへの適用貢献を行うものです。2023年度はPMBOK® 7版を広く周知することを目標に活動しました。

日本フォーラムで、本研究会メンバーがPMBOK® 7版を題材にした研究成果を発表しました。また、PMBOK® 7版オンデマンドセミナー向けコンテンツを制作し、日本支部へ提供しました。

また、コロナ禍の影響で開催を自粛していた「PM-ZEN(禅)」(日本支部会員以外も参加可能)を対面形式とWEBのハイブリッドで開催しました。

ビジネスアナリシス研究会

ビジネスアナリシスに関する調査・研究を通じて、現場で活用できる具体的な手法を提供することで、ビジネスアナリシスの普及を行います。2023年度からワーキンググループに分かれて活動しています。

日本フォーラムでは「ビジネスの企画・立案・推進に必要なストーリー作成に関するアプローチ」と題して発表しました。また、昨年に引き続き、標準推進委員会と連携してPMIビジネスアナリシス・ガイド紹介セミナーも開催しました。

当研究会メンバーが20名を超えたこともあり、メンバーが取組みたい内容をピックアップして、3つのワーキンググループによる活動を始めました。

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

社会課題解決の活動に適したPM手法を開発・普及することにより、社会の発展に貢献することを目的としています。2023年度は主にソーシャルPM手法の見直しおよび、コミュニティ・キャピタルの強化を目標に活動しました。

2023年度の主な成果は以下のとおりです。1.デジタルディバイド、Well-Beingに関して日本フォーラムで講演をしました。2.社会課題に取り組む6団体へインタビューを実施し運営課題を抽出しました。3.ソーシャルPM手法の部会内勉強会を20回開催しました。4.新規入会者向けガイダンスの作成や懇親会を通して活動の活性化を図りました。5.コミュニティ・キャタルに関する研究に着手し、部会内で中間報告を行いました。6.PMに関する短時間動画教材を4本作成して公開しました。

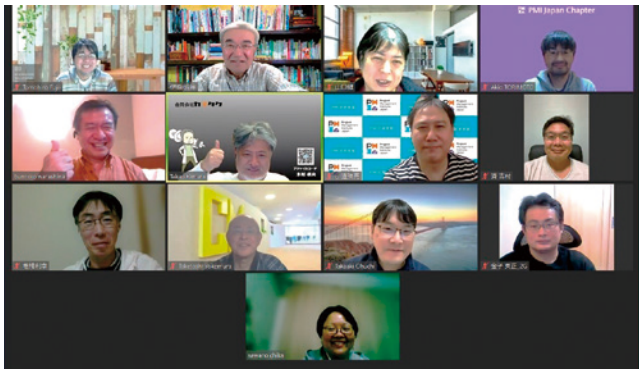
10月に開催した懇親会の集合写真

アジャイル研究会

アジャイルプロジェクトマネジメントの発展、展開、情報発信を行うため、活発な活動の場を提供しています。各自が主役となり、研究活動の推進、メンバーへの価値提供、内外コミュニティとの交流を行っています。

2023年度は、「アジャイル意識調査」、「共創を加速するアーキテクチャ」、「アジャイルソフトウェア開発を組織に展開する可能性について」の3件を日本フォーラムで発表しました。

また月例会ではアジャイルジャパンサテライトによる事例を基にしたディスカッションのほか、「とにかくアジャイルについて語ろう」では参加者が持ち寄ったテーマや疑問に対する意見交換を継続して実施し、会員相互の交流とアジャイルに対する知見向上に努めました。



月例会恒例の出席者記録を兼ねた記念撮影

ステークホルダー・エンゲージメント研究会

PMBOK® ガイドのステークホルダードメインを中心に多様なステークホルダーに対する効果的なマネジメント・エンゲージメント方法を研究し、会員に展開することを目標に活動しました。

2月に支部会員に対してどのようなエンゲージメントを行うことで影響を受けたり与えたりしたのかをアンケート調査し、PMBOK®ガイド第7版のステークホルダー・パフォーマンス領域やチーム・パフォーマンス領域を含めた形で分析した結果と影響力を使った、研究会員の実例を日本フォーラムにて発表しました。

また、日本支部創立25周年記念動画に当研究会の紹介動画を投稿しました。

さらに、今まで「ステークホルダー研究会」として活動してきましたが、より「エンゲージメント」に注力した研究を行いたいとのことから、2023年度は研究会名称を「ステークホルダー・エンゲージメント研究会」に変更しより、ステークホルダーに対する有効なエンゲージメント方法を研究する研究会として生まれ変わりました。

部会、スタディ・グループ、コミュニティ活動

IRC研究会

日本流PMメソッドの海外への発信、また海外のPMメソッドの国内への発信を通じて、国内外のPMの交流進化を目指して活動しています。2023年は活動周知とコミュニティの拡大を目的としたネットワーキングを実施しました。

2023年は支部内外の海外PMとの交流拡大を目的としたネットワーキングイベントを企画、7月に日本支部にて開催しました。7か国から計20名、さまざまな業種から参加者が集まり、それぞれの職業におけるPM経験について興味深いライトニングトークと、活発な議論が交わされました。2024年はさらに春と夏2回のイベントを開催したいと考えています。研究会への見学・参加応募も着実に増えており、より活発な活動を推進していきたいと思います。

2023月7月開催のIRCネットワーキングイベント

PMBOK® セミナー・プログラム

2022年度はオンデマンドでセミナーを制作・配信しましたが、2023年度は会場開催でのセミナーを実施しました。理解を深めてもらえるよう振り返りのワークショップを行い、受講者から好評価を得られました。

リアルでの開催が久々ということもあり、タイムマネジメントや受講者の反応を見ながら行うセミナーの難しさを感じましたが、グループワークの盛り上がりなどを見て運営側としても満足感を得られました。2024年度もプロセス群実務ガイドのセミナー実施など新たな取り組みにチャレンジしていきます。講師担当のみならず、セミナーの企画・運営・サポートいただける方も募集しています。

PMBOK®ガイド第7版 詳細解説セミナーの様子

セミナー・プログラム

2023年も各界のフロントランナーによる講演を、完全リモートで開催することとしました。また、各セミナーの質を落とすことなく、より効率的な運営方法を検討、実施することを目指しました。

新春特別セミナー、月例セミナーを合計7回（4回はワークショップ形式）開催し、平均満足度92.6%を得ました。Japan Festaは10名の講師を招請し、384人の方に参加申し込みいただき、総合的な満足度は98.0%でした。2023年度は、セミナー回数に拘らずJapan Festaに集中すること、プログラム内の運営を役割担当制で行いました。今後も、より良いセミナーをより効率的に提供することを目指します。

Japan Festa 運営スタッフ

SDGsスタートアップ研究会

多くの法人のSDGs活動の効果的な立ち上げ・推進を支援するためSDGsスタートアップ方法論の研修を通じた普及促進、実プロジェクトマネジメント支援や大規模SDGsセミナーの開催、記事や動画配信等を行った。

私たちは内閣府『地方創生SDGs官民連携プラットフォーム』にSDGsスタートアップ研究分科会を立ち上げ、SDGs事業の効果的な立ち上げ推進を支援しています。

2023年もSDGsスタートアップ研修ワークショップを年3回開催、7法人のSDGs事業のプロジェクトマネジメント支援、春と秋に大規模SDGsスタートアップセミナーの開催、日本フォーラムでのExcellent Speaker受賞、IIBA日本支部など外部での講演、多くの動画・記事コンテンツ配信…など書ききれない成果を多数あげています。

研究会内の懇親会：SDGsゲームワークショップの光景

関西ブランチ所属支部会員による部会活動

関西ブランチ 運営委員会

関西ブランチのメンバーに学びやコミュニケーション機会の提供を目的に活動しています。2023年は月例会、日本フォーラム2023のブランチ内リハーサル、年末の成果発表会の実施に加え、外部講師を招請し関西セミナーを開催しました。

月に一度、関西ブランチの研究会代表と運営委員が集い、関西ブランチ運営の企画・検討を行っています。2023年の関西セミナーでは現職の副住職を講師にお迎えし、「予測不能な時代に本質を見失わないために～AIの進化と仏教の視点～」をテーマに講演いただくなど、皆さまに知識習得機会を提供できました。また、12月の成果発表会は、リアル会場＋オンラインで開催し、各研究会からの個性豊かな成果発表に加え関西圏以外の参加者も増加し、参加者数も過去最大になるなど、毎年盛り上がりをみせています。

関西ブランチ プロジェクトマネジメント実践研究会

実践研究によるプロジェクト成功率向上とプロジェクトマネジャーの実践力向上を目的としています。 PMIの戦略目標の一つである「リーチの拡張」に従い、2023年度からターゲット層を「ジュニアからシニアまで」に拡大しました。

日本フォーラム2023では1件の発表を行いました。タイトルは、「インタビューによるショートケース作成」です。

また、7月には4年ぶりにショートケース・ワークショップを関西にて対面で開催しました。大変好評で、参加者から２名の方が研究会に入会されました。

10月には岡山市の川崎医療福祉大学にて、「PM特別セミナー」を開催することができました。このセミナーも好評で、大学より2024年度も継続実施してほしいとのご要望をいただきました。

川崎医療福祉大学でのPM特別セミナー（集合写真）

関西ブランチ 医療プロジェクトマネジメント研究会

2023年度は2022年度に仮説検証した創薬メタモデルについて医療機器開発への適用可能性を検討することおよび、地域医療連携にプログラムマネジメント手法の適用可能性の検討を目標に活動しました。

創薬のプロセスは不確定要素が多く、時間がかかることから、より柔軟かつ迅速な創薬開発を目指し、アジャイルを念頭にメタモデルを作成しました。設計変更が多い医療機器ではこのメタモデルがよりフィットするのではないかという仮説を設定し検討した結果をフォーラムで発表しました。

また、患者のステージ毎に複数の医療機関をまたぐ地域医療連携は複数プロジェクトの集合であるプログラムと言えることから、PMBOKの概念を適応して、地域医療連携業務を最適化すれば患者満足度は改善するとの仮説の下、事例をテーラリングで説明し患者視点でストーリーボードを作成しその成果をフォーラムで発表しました。

関西ブランチ IT上流工程研究会

ITプロジェクトの上流工程での実践事例の共有・議論を行い、そこで得た知見を広く発信・展開することでIT業界全体をより良くすることに貢献することを目的に、「ビジネスリレーションシップマネジメント」、「アーキテクチャとPMとBAの融合」「DA（Disciplined agile）の実践」をテーマに活動しました。

日本フォーラム2023では「DXの次に来るもの～BTABOKに学ぶデジタルアドバンテージへの道～」と題してBTABOK（Business Technology Architecture Body of Knowledge）エンゲージメントモデルというアプローチを紹介し、DXの成果であるデジタルアドバンテージを実現する道筋で考えるべきことと、組織が修得すべきケイパビリティの全容を示しました。また、関西ブランチ成果発表会では、「Disciplined Agileやってみた（まだ道半ば）」と題し、DA実践の意義と実践事例を紹介しました。

関西ブランチ 定量的PM事例研究会

2023年度は参加者のプロジェクトや関心事を元に毎月事例発表を行い、互いの経験から学び合うことを目標に活動しました。近年、定量的なマネジメントに加え、人に関するテーマを中心に研究活動を行っています。

月次合同定例会では他部会のゲスト講演や参加者の皆さんから多くの事例を紹介いただき、多様な価値観を持ったメンバーとの交流を通じて学びを深めることができました。また、日本フォーラムでは、「チェンジリーダーを導く変革の勘所」と題して発表し、年末の関西ブランチ成果発表会では、「PMO設立の道のり-意思決定のためのStatus Monitoring自動化と分析の提供」を発表するなど、人とモノ（方法論）の両面で研究活動を展開しています。

関西ブランチ プロジェクトマネジメント創生研究会

本研究会のミッションは「関西マインドで世界をワクワク」です。2023年度は「研究員の探究心 / 好奇心をもってPMのリスキリング行動を促す」をテーマにアジャイルなコミュニティ運営を目指し活動しました。

2023年度は、毎月第３土曜日の定例会で、「DX時代のPMコンピテンシー / EQを探求しEQをどう教育するか？”“自律社会について”“ 起承転結人財モデル」について対

話を行い、未来のPMに必要なスキルについて話し合いました。日本フォーラムでは「自律社会に向けたコミュニティ運営へのプロジェクトマネジメントの応用」と題してこれから来る自律社会に向けて個々の自律が促される中、コミュニティがどうなるべきか？を提案しました。

合宿と定例会の様子

中部ブランチ所属支部会員による部会活動

中部ブランチ 運営委員会

中部ブランチは運営委員会、PMサロン、地域ソーシャルマネジメント研究会の3つの部会で構成されており、運営委員会は、その部会間の運営支援に加え、地域セミナーなどの支部内活動との連携を進めました。

2023年度は月1回のペースで定例会を開催し各部会の状況確認と相互のアドバイスなどを進めました。11月には地域セミナーとして、会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式での開催に取り組み、DX時代のコンピテンシーやリーダーの心構えについて講演をいただきました。参加者からも高い評価をいただき、引き続きブランチ内の活動とも関連させながら、中部地域を起点とした高い価値を実現できる共創の場を提供していきます。

2023年11月開催の地域セミナーの様子

中部ブランチ　PMサロン / セミナー部会

PMサロン部会のミッションは、PMに関する情報共有の場を提供し、PM人材を育成および発掘することによってPM活動を支援することです。2023年度はセミナーを開催し、PM人材を掘り起こすことを目標に活動しました。

『音楽教室の経営をビジネスアナリシス / プロジェクトマネジメントで支援する。』と題して、6月24日（土）対面セミナーを開催しました。ビジネスアナリシスに慣れていない参加者にとって新鮮な活動であったとの声をいただき、音楽教室の先生からは、「“真のニーズ”に気づくことができてとても有効でした。」との講評をいただくことができました。

また、毎月第一水曜日のリモートでの定例会活動を継続しました。

地域セミナーで活用したプロジェクトシート

中部ブランチ 地域ソーシャルマネジメント研究会

当研究会は社会的課題の解決に向け、プロジェクトマネジメントがどのように貢献できるかを考え実践する研究会です。2023年度は中部地域の企業 / 団体に向けたPM講座の展開を目標に活動しました。

当研究会では以前、豊田市を支援して地域活動の活性化に貢献しました。その時のノウハウを活用して中部地域の企業 / 団体にさらに貢献できないか検討し、プロジェクトマネジメント講座を立ち上げることが決定しました。地域の企業 / 団体が容易に活用できるテンプレートとして講座資料のテンプレートを作成しつつ、実際に中部地域の企業の意見も伺いながら完成に向けて取り組んでいます。

地域コミュニティによる活動

以下のような国内各地域でコミュニティ活動をしており、地域サービス委員会にて活動報告や情報共有をを行っています。

● ブランチ

（関西ブランチ、中部ブランチ）

●地域コミュニティ

（北海道、東海・富士、中国＠広島、四国、九州）

ブランチについては別項で記載しているため、ここでは各地域コミュニティの主要な活動を紹介します。

【北海道コミュニティ】

2010年に地域コミュニティ「北海道のPMピープル」として立上がり、独自に定例会、大学でのPM 講義、周年セミナーなどの活動を行っています。地域サービス委員で情報共有しながら活動を支援しており2023年度は地域セミナーを開催しました。

【東海・富士コミュニティ】

2021年度新たにコミュニティを立上げ活動を始めました。2023年度は地域セミナーとウォーターフォールとアジャイルについて勉強会を開催しました。また、25周年事業の一つとしてPMoA (Project Management of Arts) が熱海で企画されたためサポートメンバーとして参加しました。2024年度は、Webを活用した活動と東海・富士地域でリアルに集まれるメンバーによる活動の両面からの企画に取組む予定です。

【中国＠ 広島コミュニティ】

2020年に立上がり、特別セミナー、地域セミナーを開催しつつ、立上げ時の4名から、着実にメンバーを増やしています。2023年度には新たな勉強会を始めるなど活動の幅も広げています。

【四国コミュニティ】

現在1名で地元の大学関連の活動に参加し、コミュニティの仲間となる人と出会い・つながる活動をしています。2023年度は、支部有志も加わり、徳島県上勝町「e-Bikeを使ったLearning Journey」、「柚香（ゆこう）収穫ボランティアによる山奥の耕作放棄地対策活動」試行の支援も行っています。

【九州コミュニティ】

2020年に立上がり、コミュニティ拡大に向け、地域セミナーや勉強会等を企画／開催しています。2023年度は新メンバーの参加やconnpassでの勉強会の試み、地域セミナーへの参加者の大幅増加により、交流が活発化し地域ネットワークの拡充が実現しました。

コミュニティ内での打合せは、オンラインによる会議、対面打ち合わせを併用するハイブリッド形式で進めています。地域サービス委員会は全地域合同でのオンライン会議を月1回ペースで行っており、各地域から活動内容を報告いただいています。各地の活動を情報共有することで互いの刺激になっています。2024年度からは地域コミュニティは支部規定のコミュニティとして改組し、新たにメンバーを募集し、活動の活性化を狙っています。

各地域から代表者が集まったFtoF会議

広島での勉強会風景

COLUMN **渡辺 恵士朗** 地域サービス委員会〔北海道〕

地方在住なのですが、支部活動に参加することで、日本各地で意欲的にPM活動に取り組まれている方々とのつながりができ、とても刺激を受けています。現在は地域サービス委員会以外にも複数の研究会にオンラインで参加させていただいており、これらの活動はPMとしての知見や活動の幅を広げるためにとても有意義だと感じています。今後は自分が得たものを地域へ還元し、地域におけるプロジェクトマネジメントの普及にも貢献していきたいと思っています。

法人スポンサー社員による活動

法人スポンサー 人材育成スタディ・グループ

一流のプロジェクトマネジャーに必要な人間力についての研究を継続しています。2023年度は格言カレンダーとカルタを公開すること、そしてケースメソッドSGとのコラボ企画実現を目標に活動しました。

「プロマネ格言！カレンダー」を公開しました。また、ケースメソッドSGとのコラボ企画も目標通り実施できました。一方、カルタは、読み札の全体レビューが未完で、絵札はこれから着手です。道半ばですが、得たものは多いです。アジャイルで進め、各班でそれぞれ工夫をこらし知見を得たこと、中身が濃い討議ができそれがカルタに反映できたこと等です。今後は、カルタをさらに進化させ、活用ガイドも成果物としてまとめる予定です。

毎月の定例会の様子

法人スポンサー　若手PM育成スタディ・グループ

2023年は第4テーマとして「プロジェクト環境変化への追随」という観点から、「これからの若手PM育成」を設定、過去の活動の3つの成果物を順次見直すこととし、第1テーマ「PM候補者選定ポイント」の見直し完了を目標に活動しました。

2023年の成果として、第1テーマ「PM候補者選定ポイント」の見直し二周り目の終了が見通せるところまで進めました。

新任PM選定ポイントだけでなく中堅PMに求められるコンピデンシー定義としても使える特性表として、その言語化が8割方完了できました。12月の法人スポンサー連絡会の活動報告で説明し、参加者の皆さまから大きな期待をいただけたと感じています。

2024年度はこの第1テーマの見直しを完了させ、成果物として公開予定です。また、第2テーマ「PMのモチベーション維持・向上方法」の見直しも完了したいと考えています。

法人スポンサー ケースメソッド・スタディ・グループ

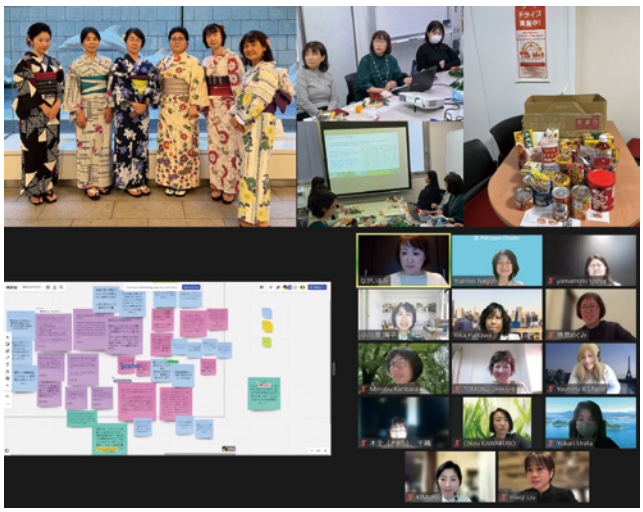
PMやプロジェクトメンバーの育成、スキルアップのためにケースメソッド型の学習がいかに効果的であるかを検証し、その効果を最大化するためのケース作成や学習時のファシリテーションの方法論を研究しました。

PM やプロジェクトメンバー育成手法としてのケースメソッド学習の有用性や、実践時の留意事項、勘所に関して日本フォーラム 2023 で報告しました。また、8 月に人材育成 SG と共同で「ケースメソッドで学ぶ！プロマネの人間力と実践力」と題したイベントを開催し、ケースメソッドが PM 育成に効果的であることや、ケース分けの作り方の勘所、ファシリテーションのコツ等を体感していただき、参加者の方々から高い評価を得ることが出来ました。

コミュニティによる活動

女性コミュニティ

女性PMやその候補であるリーダーの皆さまの活躍とスキルアップを支援し、交流を促進する活動を行っています。2023年度は定例会やイベントを通して女性PMのエンゲージメントを強化することを目標に活動しました。



定例会やイベントの様子

月に1回の定例会や季節毎のイベントではプロマネスキルと女性キャリアの2軸を主なテーマとして扱い、多様なバックグラウンドのメンバーで議論やシェアを行いました。さらに、SDGsへの貢献として「脱炭素」の課題に注目し、フードドライブイベント等を通して循環型社会を目指す活動を行いました。また、日本支部創立25周年の活動と連動した教育動画を制作し、プロジェクトマネジメントの普及に貢献しました。女性PMへのインタビューを行い、さまざまな経験や転機、将来に向けた思いを記事と動画で掲載しました。
https://www.pmijapan-women.net/

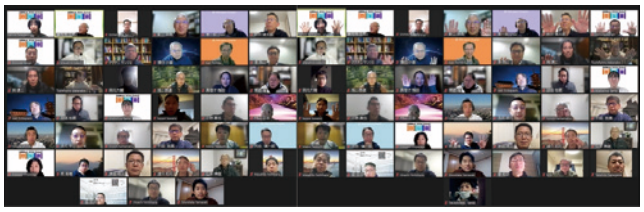
AI@Work

AI@Workのミッション達成のため、戦略展開や各WG活動の先鋭化を進め、外部連携による「オープンな共創」を検討・推進していくことを目標に活動しました。

発足時より71%増のメンバー213名、各種ツールを活用しバーチャルチームとして常時60～80名が活発に研究を進めています。2023年は研究成果を日本フォーラムで発信、AI@Work独自の対外発信であるConference等の開催、グ

ローバルで開催されたAI-Driven Project Management Masterclass参加など積極的に活動しました。

生成AIの技術革新と、PMIでのPM x AI 推進に併せ、2024年は研究内容の発展とアセット化をさらに推進します。PMI Global Summit 2024での発表など対外発信と成果共有を実施することで、日本支部のプレゼンス向上、アウトリーチに寄与したいと考えています。



2024年度キックオフ時の集合写真

DAコミュニティ

DA（ディシプリンド・アジャイル）の適用方法、活用方法の学習・研究を目的としてWG0：DAショートセミナー、WG1：ChooseYourWoWの読書会、WG2：適用研究、WG3：エンタープライズ適用研究の各WGに分かれて活動を行いました。

ディシプリンド・アジャイルという名前からアジャイル開発技法のひとつと思われる方も多いですが、実はウォーターフォールやアジャイルといった技法に関わらずさまざまな組織に適用可能な手段の提供がDAです。 DAに初めて触れる方は主にWG0とWG1で基礎的な学習を行い、DAとはどのようなものか理解を深めました。WG2では実務現場の課題や悩みに対してDAを活用してどのように改善していくのかの議論を重ねました。WG3ではDAの大きな特徴ともいえる組織全体（エンタープライズ）の領域の定義のうちいくつかについて調査・議論を行ってきました。

活動に参加された皆さんは所属組織・チームにおいて、DAを活用して少しずつでも改善していく方法を理解いただけたのではないかと思います。

月例会の様子

建設コミュニティ

2023年、建設コミュニティが発足しました。「建設」に繋がる幅広い専門分野から人材が参集し、PMBOK® 建設拡張版を基とした実務的な討議、意見交換を重ねています。

海外と異なり、日本では建設関係者にPMBOK® ガイドは浸透していません。日本には、建設に係る長い歴史と確立された業務方法があるからです。一方、現在、日本国内にあって、建設プロジェクトの巨大化・複雑化、関係者の多様化が進み、従来の業務方法では対応が難しい場面が増えています。

国内では、既に建設のマネジメント方法に係る団体はありますが、建設コミュニティは異なる側面から活動を進めて行きます。ポリシーとして、以下を掲げています。①コミュニティの体制を取り、PMI会員以外にも参加してもらい、年齢・経歴に関わらず人材の裾野を広げる、②PMBOK® ガイドを始め、PMIの知識体系を活動（業務への適用、各自の学習）の基とする、③自由闊達に意見交換を行う、④企業を超えた人的ネットワークを作る。

まだまだ手探りの部分はありますが、継続して仲間を募り、この動きが定着し、各メンバーの活動・業務に資するコミュニティとして確立していきます。

未来創造コミュニティ

ネクストジェネレーション層の交流の場を創出し、交流の中で実務経験やプロジェクトマネジメントに関する学習の経過を話し合うなかで新しい出会いや気付きを生み出すことを目指し、活動を重ねました。

2023年5月にコミュニティを立ち上げ、活動を開始しました。2023年度は主に3つのことを実施しました。1つ目は月例会。メンバーが日々の業務で直面している悩みについて皆で考え、相互に相談を実施しました。2つ目はPMP® やCAPM® についての勉強会。隔週で学習についての進捗や悩み相談を行い、学びの継続に尽力しました。3つ目はオフラインでの交流会。メンバーの交流を深めました。これらの活動を通じて、当コミュニティはメンバー一人ひとりの気付きや成長の機会を提供しています。

2024年1月に実施された新年会（多くは35歳以下のメンバー）

COLUMN **古屋 秀樹** 建設コミュニティ

日本支部での活動への参加により、前職（建設会社）、現職（不動産開発コンサル）では、通常、出会うことのできない専門家とのつながりが広がりました。一般的に、私を含め日本のビジネスマンは、他の専門分野、業界、および自分の業務地域以外の人々と繋がる機会は限られています。

日本支部の活動、セミナーはその機会を提供してくれます。それにより、自分自身の専門的な知識が豊かになりますし、何よりも出会いそのものが楽しい。仕事で直面する課題が高度化、複雑化する中、幅広いネットワークを持つことは大きな力となります。日本支部活動は、そこへのアクセスを提供してくれます。

各種セミナー

外部講師招請によるもの

月例セミナー

月例セミナーはセミナー・プログラムのメンバーが講師選定・折衝・準備・当日運営の全てを務め、現場PMの方々が興味を持つ旬のテーマ・講師を選定しています。コロナ禍にあって2020年4月以降は全てを完全リモートで継続実施しています。秋のJapan Festaの企画に傾注するため2023年の月例セミナーは8月度までとしました。2020年度から採り入れているグラフィック・レコーディングは「振り返りに役立つ」との評価のほか、講師ご自身にも大変喜んでいただいています。各回のアンケートによるセミナーへの平均満足度は毎回90%前後と2023年も高い評価をいただきました。

2023年の月例セミナー

講演月	テーマ	講演者	所属
新春特別セミナー	『終活』というプロジェクトマネジメント	青松 彰 氏	行政書士 青松事務所 代表
2月度	東大医科研発ベンチャー企業のプロジェクトマネジメント	岸本 倫和 氏	株式会社Liquid Mine 代表取締役社長
3月度	大規模ソフトウェア開発における「人中心」の品質マネジメント革新	岸良 裕司 氏	ゴールドラット・ジャパン CEO
4月度	思いつきを「最高のプロジェクト」にするための最速の方法	矢島 ノブ雄	一般社団法人 日本即興コメディ協会 代表理事
5月度	プロジェクト・マネジャーのためのコーチング基礎講座	櫻本 真理 氏	株式会社コーチェット 代表取締役
6月度	考える力1.0を考える力2.0に更新しよう	狩野 みき 氏	慶應義塾大学、東京藝術大学、ビジネス・ブレークスルー大学 講師
8月度	定期的な対話を反復することでプロジェクトをみんなで推進するフレームワーク Project Sprint	定金 基 氏	株式会社コパイロット 共同創業者

グラフィック・レコーディングの例はこちら

アジャイル研修

2023年度のアジャイル研修は Zoomを使用して4月、8月、11月にリモート開催しました。主に「アジャイル基礎」を開催していますが、アジャイルプロジェクト成功の鍵となる「アジャイルの基本的な考え方を正しく理解すること」に焦点を合わせています。また、アジャイルプロジェクトで採用例の多いスクラムのプロセスをワークショップで体験しスクラムの基礎も理解していただけるようにしています。コース内での疑問だけでなく、受講者が日頃から持っている疑問・質問にもお答えできるよう Q&Aタイムを十分に取っており、好評いただいています。今後も全国から受講いただけるようリモート開催を継続します。

プログラムマネジメント実践ワークショップ（DX推進の必須スキル強化）

本講座は講師が泥まみれの実体験をもとに、マネジメント・サイエンス視点も加味した『上級PM心得八箇条』を解説したもので、現場におけるプログラム・レベルの課題をどう解決しどのように対処すべきかを考えていただく機会となりました。グループディスカッションを通してさまざまな業界、キャリアの方々と共通の悩み事や、異なる視点での考え方を語り合っていただき、受講者からは、「同じような悩みを抱えているのが自分だけではない」、「だからこそ明日からまたあきらめずに頑張ろうという前向きな気持ちになれた」などのコメントをいただきました。

オンラインミーティングでも役立つ会議ファシリテーション基礎セミナー

ファシリテーションは、自らがチームの問題解決に深く入り込むのではなく、チームメンバーの力を引き出し、チームが問題解決することを支援・促進する、近年注目されているリーダーの必須スキルです。

コロナ禍のオンラインミーティングでも役立つもので、話の長い人、逆に話さない人、発散しすぎた議論、逆に発想が広がらない議論、コンフリクト（対立・葛藤）の発生や時間の管理など、会議運営時のさまざまな困った状況下でも適切にファシリテーターとしてさばけるよう、ワークショップを通して実践的に習得いただきました。2022年に引き続き、2023年もオンライン形式（講義&ワークショップ）で開催しました。

SDGsスタートアップセミナー

SDGsスタートアップ研究会は毎年春と秋に大規模セミナーを開催しています。2023年9月2日（土）のオンラインでのセミナーでは、ゲストとしてお招きした NPO 法人 AIonAIon 理事長の 那部 智史 氏より、『ビジネスの力で社会課題を解決する』と題して、SDGs 実践事例紹介をいただきました。

法人向けに高単価の胡蝶蘭の販売および、栽培技術を持つ人材の紹介を事業として展開し、福祉をマネタイズにつなげるプロセスをお話しいただき、QA コーナーでは活発な質疑応答が交わされました。

本セミナーの事後の参加者アンケートでも、イベント参加者の満足度は100%と高評価をいただきました。

未来創造セミナー

未来創造セミナーは、若年層のPMI活動への興味関心・認知度向上を図るため、社会的影響力のある起業家や社会活動家、実務家を講師に迎えセミナーを行っています。2023年は、ターゲット層であるZ世代、ミレニアム世代の嗜好や関心事を踏まえ、世の中に新たな価値を提供し、社会的影響力のある講師を迎え無料セミナーを3回開催し好評を博しています（9月22日「チーム内コミュニケーション向上」、11月26日「今の時代を生きるスキルとは　明日から使えるマネジメント入門」、12月20日「異彩を、放て。～多様性の最前線～」）

理事・部会メンバーが講師を務めるもの

標準セミナー

2021年から定期開催を始めた標準セミナーは、開催日に受講出来なかった方向けにオンデマンド配信をラインナップに加え、累計受講者数が3,000名を超えました。

セミナーでは、研究会や日本語版出版に係ったメンバーが、理解が難しい標準の内容を単に説明するだけでなく、いかに日本組織の実務に適用するかなどのアドバイスなども織り交ぜて、その専門分野における知識と経験を余すところなく、熱い思いと共にみなさんに語りかけています。

2023年に実施したセミナーの概要を以下に示します。2024年度も新たに『プロセス群：実務ガイド』などをラインアップに加え、引続き標準セミナーを実施します。

2023年1月開催：BA（Business Analysis：ビジネスアナリシス）

・Key Message：要求事項収集だけじゃないの？

・講師：仲宗根 朝哉氏

失敗プロジェクトの半数が、要求の見落としと誤解に起因するという調査結果があります。一方でプロジェクトの成功率が高い組織では、ビジネスアナリシスプロセスが成熟しているという調査結果があり、ビジネスアナリシスへの期待と関心が高まっています。

ビジネスアナリシスは、知識、スキル、ツール、テクニックを応用して、ビジネス目標に合わせたソリューションの提供を支援し、組織に継続的な価値を提供するために実施される一連の活動であり、セミナーではビジネスアナリシスがプロジェクトの成功にどのように貢献できるかを解説しました。

2023年2月開催：OPM（Organizational Project Management）

・Key Message：組織の戦略目標を実現するプロジェクトマネジメント

・講師：池田 修一氏

プロジェクトマネジメントで発生する問題は、プロジェクトマネジメントそのものだけではなく、プロジェクトの選定、リソース不足など、組織に起因するものも多くあります。

組織のプロジェクトマネジメントは、実務慣行とプロセスを適用し、整合性をとることにより、プロジェクト、プログラムおよび、ポートフォリオマネジメントを用いて、組織の戦略目標を達成するための最適な支援を提供します。セミナーでは『組織のプロジェクトマネジメント標準（OPM：Organizational Project Management）』をベースに、組織のプロジェクトマネジメントの成熟度を上げ、戦略目標を達成する考え方を解説しました。

2023年3月開催：ポートフォリオマネジメント

・Key Message：戦略とプロジェクトを結び付ける

・講師：尾崎 能久氏、アンリ近藤氏

DXの時代を迎え、企業・組織はより複雑な経営課題に直面し、数多くのプロジェクトを抱え、いかに成果を上げるか腐心しています。

ヒト・モノ・カネのリソースは限られ、すべてのプロジェクトを同時並行で行うことは困難であることは分かっていながら、どのような手を打つべきかを悩んでいるのではないでしょうか。そのような悩みを解決するヒントがポートフォリオマネジメントで、どのように課題に対処するかについてセミナーで解説しました。

2023年4月開催：PMCDF（Project Manager Competency Development Farmwork）

・Key Message：2時間で学べるコンピテンシーのフレームワーク＆活用術

・講師：石井 友美子氏、塩田 宏治氏、中村 亜子氏、金子 啓一郎氏、鳥谷 健也氏

新しいテクノロジーを中心とした破壊的イノベーションはさまざまな業界で大きな環境変化を起こし、多くの組織がDXの必要に迫られています。

コンピテンシーとは「社会的な責任、義務を自覚した上での職務遂行能力」であり、PMCDFはプロジェクトをリードする人材のコンピテンシーを定義・評価・および開発するための枠組み、および普遍的な行動規範を提示しています。第3版PMCDFではプロジェクト・マネジャーだけでなく、ポートフォリオ・マネジャー、プログラム・マネジャーを含む垂直方向に内容が拡張され、現代に求められるコンピテンシーを立体的に考えることができるようになりました。

2023年8月開催：WBS（Work Breakdown Structure）

・Key Message：WBSの重要性を再認識し、新たな気付きを！

・講師：庄司 敏浩氏

WBS（ワーク・ブレークダウン・ストラクチャー）はプロジェクトマネジメントの基本ツールの一つであり、実務で利用されている方も多いと思います。PMBOK® ガイドではWBSの詳細は十分に説明されていませんが、実務者にWBSの詳細なガイドを提供するために、従来からWBS実務標準が作成されています。セミナーではWBS実務標準に関心をもっていただき、普段から利用されているWBSについて新たな気付きを得ていただくことを狙いとしました。

各種セミナー

PMBOK® ガイド第7版 セミナー

2022年度はコロナ禍ということもあってオンデマンドでのセミナーを作成して配信を開始しました。第7版への変更の関心の高さから、今現在も継続的に受講申込をいただいています。当初計画の際に2023年度は何をすべきかとても悩みましたが、受講者の顔を見ながらセミナーをしたいという部会メンバーの声が強く、会場開催のセミナーを企画しました。せっかく対面で開催するのだから、一方的な講義だけでなくグループワークによるワークショップを加えて受講者の反応が見えやすい形にしました。

PMBOK® ガイド第7版ではこれまでのプロセスベースのものから原理原則ベースに変更され、やや抽象的な記述となっています。第6版までのようなハウツーが記載されているわけではないため、一度書籍を読んだり講義を聞いたりしただけではなかなか理解しづらい内容です。

私も最初にPMBOK® ガイド第7版を読んだときには、「言っていることは分かるけど、抽象的で分かりづらいな」という印象を受けました。しかし、2022年度にオンデマンドセミナーを企画するにあたっての部会メンバーでの勉強会の際、メンバー間での意見交換を通じて「なるほど、そういう捉え方もあるのか」と考えさせられることが多々あり、PMBOK® ガイド第7版をより深く理解できたように感じました。

本セミナーでは、私が勉強会で体験したように多種多様な人との対話を通じてより深く理解してもらえるようプログラムしています。グループワークにより講義の内容を自身の経験に照らし合わせ、他のメンバーと対話していくことで、講義の内容をより深く考えるきっかけにしていただければと思っています。

ワークショップの様子

おかげさまで受講者からは好評価をいただいており、日本支部ホームページに2名の方からの感想が掲載されています。

「PMBOK® セミナー・プログラム」のページにもセミナーの実施報告などを載せていますので、こちらも併せてご覧ください。

PM実践ワークショップ2023

PM実践ワークショップは、プロジェクトの実践事例から作成された短いケースを疑似体験し、ケースから抽出した問題点をグループで協議し解決策を作成することにより、プロジェクトマネジャーの実践力向上を図る参加型のワークショップです。本ワークショップでは、状況把握力、課題認識力、リスク特定力などのPM実践力の向上を目指しています。

あかね実践工房では、PM実践ワークショップを2010年から通算24回実施してきました。2021年から3回オンラインでのワークショップを実施し、今回は4年ぶりに大阪市にてオンサイト（対面）で開催しました。4回連続、参加者アンケートで満足度100%の高評価を得ることができました。

2022年からは、プロジェクトマネジャーにインタビューを行ってショートケースを作成しています。2023年のテーマは「変更管理とコミュニケーションマネジメント」でした。

実践的に理解を深めていただくため、ワークショップ方式で進めています。ワークショップの主な流れは以下の通りです。

（1）セミナー全体についての説明
　セミナー全体の趣旨や進め方、ケースメソッドに関する基本的な考え方を説明します。
（2）ショートケースの紹介と質疑応答
　実践事例に基づくショートケースの紹介を講師が行います。
（3）個人検討
　個人にてショートケースの中から懸念事項を抽出し、対策案を検討します。
（4）チーム検討と発表
　個人で検討した懸念事項と対策案を持ち寄り、チームでまとめて発表します。講師によるサポートも随時行います。
（5）振り返り
　全体の振り返りを行います。その中で重要な視点や持ち帰っていただきたい学びを整理します。

今回のワークショップにはオンサイトであったにも関わらず関西圏以外の方にも多数ご参加をいただきました。大変嬉しいかぎりです。今後は、対面とオンラインの双方の開催を行っていきたいと思います。

関西成果発表会

関西ブランチでは、毎年12月に関西ブランチ所属メンバーが一堂に会し、各研究会の活動成果を発表する場として、成果発表会を開催しています。2023年は、コロナの感染収束状況と首都圏在住の関西ブランチメンバーが増えていることに鑑み、新大阪のニッセイ情報テクノロジー社様のセミナー会場をオンラインで繋ぎハイブリッド運営で開催しました。

成果発表会は、普段接する機会の少ない他の研究会の発表を聴講できる貴重な機会であると同時に、発表者としても価値観・文化の異なる他の研究会や一般参加者から広く意見・質問をいただくことで、互いに新たな気付きや価値観の醸成を図る大切な議論の場になっています。

また、関西地域の活動を全国の方に知っていただき、いずれ活動に参画いただけるよう支部会員以外の一般の方にも広く告知し、互いの学びの場として関西ブランチが今後さらに愛され発展していくことを狙いとしています。

2023年の申込者は過去最大となる69名（内40名がオンライン申込）でした。午後半日の短い時間でしたが、約３年ぶりにブランチメンバーが対面できたこともあり、各研究会発表では、活発な質疑応答や意見が交わされ、最後に山本理事から講演を総括してご講評いただきました。

また、講演後は一般参加の方々も交えて交流会を開催し、忘年会も兼ねたとても有意義なイベントになりました。

＜発表テーマと講演者＞

「創生研のパーパス：PMの探究心、好奇心をくすぐるEmpathy広場を世界に広げる。について」
PM創生研究会：伊達 渡氏

「Disciplined Agileやってみた（まだ道半ば）」
IT上流工程研究会：井﨑 学氏

「PMO設立の道のり-意思決定のためのStatus Monitoring自動化と分析の提供」
定量的PM事例研究会：橋野 秀紀氏

「学生向けPM教育ワークショップの実践報告」
PM実践研究会：橋本 欽司氏

「2023年の活動を振り返って」
医療PM研究会：岡橋 正明氏（出演者：琴葉 茜・葵）

発表会後の整列写真

地域セミナー

地域セミナーは地域サービス委員会が主催し首都圏以外で開催しており、会員のほか一般の方も無料で参加でき、日本支部や地域における研究、活動内容を知ることができるものです。

コロナ禍の3年間はオンライン開催でしたが、2022年度に会場開催を再開し、2023年度も引き続き、全国6地域で会場開催しました。

セミナーの内容は、2022年度に立てた方針「地域内での自主運営、地域性のある独自テーマ」を同様に取込んで企画を練りました。2部構成とし、第1部は昨年度同様に全国共通テーマを設けて支部から講師を派遣する形としましたが、その際に次の2種類の共通テーマを設定し、地域独自企画の第2部に繋がりやすい方を地域毎に選定してもらうこととしました。

地域セミナー　第1部共通テーマ概要

テーマ名	内容・講師
進化するPMI標準	PMIからリリースされた標準類について最近の動向を踏まえた概要紹介。講師：標準推進委員会より金子理事
タレントコンピテンシーの活用紹介	PMCDF（Project Manager Competency Development Framework）第3版の概要とその活用法、DX時代が求めるコンピテンシーを紹介。また、会場によりタレント・トライアングルのひとつパワースキルに焦点を当てた「EQ向上のための実践事例」の紹介。講師：PMタレントコンピテンシー研究会より神庭氏、勝連氏

第2部は、各地域の特色や運営の独自性を出せるテーマを独自設定した後、ワークショップを中心に地域担当者にて教材やシナリオを作成し、運営しました。

2023年度の各地域のセミナー概要を下表に示します。

各地での地域セミナー概要

ブランチ・地域名	セミナー内容	開催日/参加受講者数
北海道	テーマ『北海道地区の参加者の皆さんに最新のPM情報をお届けする』 **第1部【講演】** 「進化するPMI標準」（講師：日本支部理事 金子氏） **第2部【ワークショップ】** 「デジタルデバイド問題を解決するプロジェクトマネジメント」	9月30日（土）/参加13人
東海・富士	テーマ：PMBOKだけじゃない！ さまざまな標準を活用してプロジェクトの価値と成功を高めよう **第1部【講演】** 「進化するPMI標準」（講師：日本支部理事 金子氏） **第2部【ワークショップ】** 「各種標準をプロジェクトに当てはめてみよう」	11月18日（土）/参加13人
中部ブランチ	テーマ「『DX時代に求められるものとは』～コンピテンシーとリーダーシップの必要性を考える～」 **第1部【講演】** 「DX時代が求めるコンピテンシー」（講師：PMタレントコンピテンシー研究会 神庭氏） **第2部【講演】** 「イノベーションを創り出すリーダーの心構え」	10月28日（土）/参加17（+オンライン3）人
関西ブランチ	テーマ：DX時代が求めるPMスキルである共感力を養う **第1部【講演】** 「EQ向上のための実践事例について」（講師：PMタレントコンピテンシー研究会 勝連氏） **第2部【ワークショップ】** 「いまからでも遅くない！自分たちの手で大阪・関西万博を盛り上げよう！」	11月25日（土）/参加32人
中国@広島	テーマ「『プロジェクト成功のカギはWell-being』～チーム・ビルディングの考察～」 **第1部【講演】** 「進化するPMI標準」（講師：日本支部理事 金子氏） **第2部【ワークショップ】** 「Well-beingカードを使ったチーム・ビルディング」	10月28日（土）/参加17人
九州	テーマ　成功のカギを握る「リーダーシップ」 **第1部【講演】** 「DX時代が求めるコンピテンシー」（講師：PMタレントコンピテンシー研究会 神庭氏） **第2部【講演】** 「老舗菓子メーカー「風月フーズ」のデジタル転換：異なるバックグラウンドを持つチームが業務効率化を果たす道のり」（講師：風月フーズ株式会社 代表取締役社長 福山 剛一郎氏）	11月3日（金・祝）/参加11人

2022年度に再開した会場開催から得られた運営ノウハウを活かせたこともあり、どの地域も2022年度より大幅な受講者増を実現できました。多くの地域で採用したワークショップ形式、講師との自由闊達なディスカッションは受講者から非常に好評を得ており、その後地域活動への新規参加希望も多々いただいています。運営側も自信を持って準備に臨めており、司会進行、第2部の講師役などでも活躍いただきました。セミナー終了後は各地域で講師、運営メンバー、有志の受講者を交えた親睦会も開催でき、地域内でのコミュニケーションをより深められる有意義な機会となりました。

情報発信

ホームページ

ホームページは、日本支部の活動を支える重要な媒体で、より多くの方にいろいろな情報をお届できるよう、2023年2月にデザインを一新しました。

各種セミナーの告知、部会入会希望者のエントリー処理、書籍販売・決済、PMI本部発刊記事の翻訳記事の紹介、アニュアルレポートやニューズレターの掲載、セミナー開催時の結果報告、日本支部会員・法人スポンサー組織向け専用ページなど、さまざまな情報発信に活用しています。注目度・閲覧数が多いことから、バナー設置による企業広告や関係団体のイベント告知にも活用いただいています。

ターゲットを絞ってタイムリーな情報を提供するFacebookページと連携させ、会員をはじめとしたステークホルダーの方々に有効に活用いただいています。

なお、支部会員の皆さまには支部会員専用ページから『PMBOK® ガイド第7版』および『プロセス群：実務ガイド』の日本語版PDFを無料ダウンロードできるサービスを提供しています。

ニューズレター

ニューズレターは、日本支部のイベント報告のほか、理事紹介、部会活動紹介、新規加入された法人スポンサー様の自社紹介、プロジェクトマネジメントの世界で顕著な活動をされている方からの投稿記事、その他ファクトデータ（PMI関連有資格者数、日本支部会員数、法人スポンサー企業名、理事名簿 他）などを、pdf雑誌形式で掲載しているもので、春夏秋冬の季刊となっています。

日本フォーラム、Japan Festaの開催結果報告や、30にも上る部会活動・法人スポンサースタディー・グループの活動状況など、ホームページでは表しきれない内容を網羅しています。

メールマガジン（PMIJ通信、グローバルトレンド）

日本支部のメールマガジンは、約1万6千人（PMP® 資格保持者や本部・支部会員など、日本支部からのメールマガジンの配信を承諾いただいた方）および、110社にのぼる法人スポンサーの窓口ご担当の方々に対して情報を配信するサービスです。HTML形式にも対応しており、見やすく読みやすい内容となっています。

各種セミナーやイベントの開催、新刊書籍の割引販売、PMP® 試験要領の変更、翻訳記事掲載など、さまざまな情報について、当該ホームページを参照いただくようご案内しています。配信頻度は、基本的に1回/月、研修・セミナーなど個別の案内は数回/週のペースで、日本支部会員、プロジェクトマネジャー、法人スポンサー社員の方々にとって極めて重要な情報入手ツールとなっています。

また、2021年9月に開始した「PMIJ発 グローバルトレンド」は、PMI本部のさまざまなサイトやPMI、プロジェクトに関係する海外サイトをご紹介するサービスで、毎月10日にお送りしており好評をいただいています。

PMIJ通信

グローバルトレンド

マンガの活用

PMBOK® ガイドなどのPMI標準の普及を目的に、マンガを活用したWebページ（LP）『マンガで学ぶプロジェクトマネジメント』を設け、メール配信で読者を誘導しています。マンガによる短時間動画も加え、若い世代にも訴求できる取組みを開拓しています。2023年度は第2話（ステークホルダー）から第6話（リスク編）まで計5話をリリースしました。

Facebookページ

ソーシャルメディアによる情報発信源としてFacebookページを活用しています。

日本支部Webサイトに掲示された「イベント」や「お知らせ」など最新情報の展開だけでなく、PMI本部やPMI Educational Foundation から発信される情報などもご紹介しています。

2023年も利用者の皆さまの「いいね！」で、プロジェクトマネジメントに興味をもたれている、より多くの方に最新情報をお届けすることができました。

YouTube

ソーシャルメディアによる情報発信源としてYouTubeも活用しています。

「短時間でプロジェクトマネジメントを学べる映像教材」、「女性コミュニティのインタビュー動画」、「マンガで学ぶプロジェクトマネジメント」、「SDGsスタートアップ研究分科会活動」などの動画を公開しています。「とてもわかり易い」と好評いただいていますので、皆さんもチャンネル登録をお願いします。

販売図書

出版書籍

日本支部のオンラインショップでは、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイドPMBOK® ガイド第7版』をはじめとするPMI® 標準の日本語訳や、PMP® 受験やPMスキルの向上に役立つ書籍を販売しています。

URL: https://www.pmi-japan.shop

プロジェクトマネジメント知識体系ガイドPMBOK® ガイド第7版電子書籍(Kindle)版

PMI日本支部として初めての電子書籍の発行
スマホやタブレット端末でも読みやすい「リフロー型」のフォーマット

著者：PMI
発行：PMI日本支部
発行時期：2023年1月

過去数年にわたり、新しいテクノロジー、新しいアプローチ、急速な市場の変化によって、私たちの働き方が崩壊し、プロジェクトマネジメント専門職の進化を後押ししました。各業界、組織、プロジェクトは、それぞれ固有の課題に直面しており、チーム・メンバーは、プロジェクトを適切にマネジメントして結果を出すために、アプローチを適応させる必要があります。

本書は、『プロジェクトマネジメント標準』と『PMBOK®ガイド』の両方を含み、プロジェクトマネジメントの12個の原理・原則と、プロジェクトの成果を効果的に達成するために重要な8個のプロジェクト・パフォーマンス領域を示しています。プロジェクト・チーム・メンバーがプロジェクトの成果を積極的、革新的、かつ機敏に提供できるようにする最新のガイドとなりました。

プロセス群:実務ガイド

著者：PMI
発行：PMI日本支部
発行年：2023年12月

PMBOK®ガイドの第7版(原理・原則)と第6版(プロセスベース)のギャップを埋める実務ガイドで、予測型アプローチでのプロジェクトマネジメントに必要な実践的な情報、5つのプロセス群と49のプロセス、関連する「インプット」、「ツールと技法」、「アウトプット」を網羅しています。

本書は『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)』の価値ある姉妹書として、予測型アプローチとウォーターフォール・アプローチのための実践的なガイダンスを提供しています。プロジェクトを導き、方法論を調整し、プロジェクトマネジメント能力を評価するためのプロセスベースのアプローチが見つかります。

決算報告

貸借対照表

令和5年12月31日現在

（単位： 円）

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】	197,917,302	【流動負債】	35,691,909
現金及び預金	170,073,442	買掛金	8,099,013
売掛金	13,029,731	未払費用	5,077,679
商品	1,799,036	未払法人税等	515,800
前払費用	467,803	前受金	19,786,399
未収入金	12,547,290	預り金	2,213,018
【固定資産】	6,280,564	負債の部合計	35,691,909
【有形固定資産】	1,340,529	純資産の部	
建物附属設備	1,340,518	【株主資本】	168,505,957
工具器具備品	11	基金	55,000,000
【無形固定資産】	2,238,595	利益剰余金	113,505,957
電話加入権	37,600	その他利益剰余金	113,505,957
ソフトウェア	2,200,995	繰越利益剰余金	113,505,957
【投資その他の資産】	2,701,440		
敷金	2,701,440	純資産の部合計	168,505,957
資産の部合計	204,197,866	負債及び純資産合計	204,197,866

損益計算書

自 令和 5年 1月 1日
至 令和 5年12月31日

（単位： 円）

科目		金額
【売上高】		
売上高	112,238,417	
会費収入高	43,036,669	
売上高合計		155,275,086
【売上原価】		
期首商品棚卸高	1,705,337	
書籍関連原価	14,846,769	
セミナー関連原価	4,399,214	
その他原価	2,356,537	
25周年費用	7,232,132	
合計	30,539,989	
期末商品棚卸高	1,799,036	
売上原価		28,740,953
売上総利益		126,534,133
【販売費及び一般管理費】		
販売費及び一般管理費合計		96,100,282
営業利益		30,433,851
【営業外収益】		
受取利息	1,665	
雑収入	37,878	
営業外収益合計		39,543
【営業外費用】		
雑損失	1,500,561	
営業外費用合計		1,500,561
経常利益		28,972,833
【特別損失】		
寄付金（特別損失）	1,802,600	
特別損失合計		1,802,600
税引前当期純利益		27,170,233
法人税・住民税及び事業税		7,236,345
当期純利益		19,933,888

2023年度 理事・監事・アドバイザー

2023年12月31日現在

名 前/役職	所 属	
端山 毅 会長	株式会社 NTT データグループ 技術革新統括本部 テクノロジーストラテジスト博士（工学）、PMP	
浦田 有佳里 副会長	国立研究開発法人情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所 ナショナルサイバートレーニングセンター サイバートレーニング研究室	
麻生 重樹 副会長	日本電気株式会社 プロフェッショナル PMO	
奥澤 薫 副会長	KOLABO 代表	
斉藤 学 副会長	スカイライトコンサルティング株式会社 シニアマネージャー	
森田 公至 副会長	DXC テクノロジー・ジャパン株式会社 ジャパンデリバリー統括本部・ プロジェクト推進部長	
有坂 寿洋 理事	株式会社日立アカデミー 経営研修本部 担当本部長	
稲葉 涼太 理事	株式会社 Flexas Z ディレクター	
井上 雅裕 理事	慶應義塾大学大学院システムデザイン・ マネジメント研究科 特任教授 芝浦工業大学 名誉教授 ISAL 代表	
小川原 陽子 理事	日本アイ・ビー・エム株式会社 公共・通信メディア公益サービス事業部 アソシエイト パートナー	
鬼束 孝則 理事	Ridgelinez株式会社 テクノロジーグループ 執行役員パートナー	
金子 啓一郎 理事	三菱電機株式会社 人材開発センター 開発システム教室	
杉原 秀保 理事	ニッセイ情報テクノロジー株式会社 主席コンサルタント	
千葉 昌幸 理事	株式会社三菱総合研究所 公共コンサルティング本部特命リーダー	
中村 亜子 理事	株式会社パーソル総合研究所 シニア・コンサルタント	
永合 由美子 理事	特定非営利活動法人日本女性技術者科学者ネットワーク（JNWES）副代表理事、特定非営利活動法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト（GSTEM-CPP）代表理事、日本女性技術者フォーラム（JWEF）メンター部会長	
藤井 新吾 理事	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム 人材育成委員会 主査	
藤原 慎 理事	株式会社NTTデータユニバーシティ 代表取締役社長	
松本 弘明 理事	株式会社ローソン銀行 IT戦略統括補佐 兼 ソリューション開発部長	
水井 悦子 理事	エンパワー・コンサルティング株式会社 代表取締役社長	
保井 俊之 理事	広島県公立大学法人 理事 兼 叡啓大学ソーシャルシステムデザイン学部学部長・教授 兼 叡啓大学コンピテンシーディベロップメントセンター長	

名 前/役職	所 属	
山本 智子 理事	川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部医療秘書学科 教授	
除村 健俊 理事	サイバー大学 IT総合学部 教授 芝浦工業大学 教員教授	
渡辺 敏之 理事	日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ) 資格研修センター 資格推進部長	
片江 有利 監事	株式会社システムコストマネジメント 顧問	
山中 良文 監事	自営業者	
三嶋 良武 監事	エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ 株式会社 品質保証部 主席専門研究員	
池田 修一 アドバイザー	株式会社ポジティブ・ラーニング 代表取締役社長	
伊藤 衡 アドバイザー	京都工芸繊維大学大学院 小山工業高等専門学校 専攻科 非常勤講師	
神庭 弘年 アドバイザー	神庭PM研究所 所長	
木下 雅裕 アドバイザー	ニッセイ情報テクノロジー株式会社 代表取締役専務執行役員	
鈴木 安而 アドバイザー	PMアソシエイツ株式会社 代表取締役	
高橋 正憲 アドバイザー	PMプロ有限会社 代表取締役	
冨岡 洋子 アドバイザー	株式会社NTTデータ 執行役員 コーポレート統括本部 サステナビリティ経営推進部長	
中嶋 秀隆 アドバイザー	プラネット株式会社 コンサルタント	
福本 伸昭 アドバイザー	株式会社ピーエスシー 東日本事業本部 執行役員	
米澤 徹也 アドバイザー	あすか技術士事務所 代表	
井奈波 誠 アドバイザー	JBCC株式会社 SI企画・標準化 協業推進	
岩岡 泰夫 アドバイザー	株式会社国際開発センター 研究顧問	
渡辺 哲也 アドバイザー	株式会社日立アカデミー L&D第一部 主管インストラクター	
渡辺 善子 アドバイザー	JBCCホールディングス株式会社 社外取締役 国立大学法人 東京海洋大学 理事 一般財団法人日本情報経済社会推進協会 理事	

スポンサー一覧

2023年12月31日現在

法人スポンサー（116社）

（五十音順）

アイアンドエルソフトウェア株式会社
I&Jデジタルイノベーション株式会社
アイエックス・ナレッジ株式会社
アイシンク株式会社
株式会社アイ・ティ・イノベーション
株式会社ITプレナーズジャパン・アジアパシフィック
株式会社アイ・ティー・ワン
株式会社アイテック
株式会社アイ・ラーニング
AKKODiS コンサルティング株式会社
アクシスインターナショナル株式会社
アドソル日進株式会社
アベールソリューションズ株式会社
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
株式会社インテージテクノスフィア
株式会社インテック
株式会社エクサ
エス・エー・エス株式会社
SCSK株式会社
SBテクノロジー株式会社
株式会社エヌ・ティ・ティ・データCCS
NECソリューションイノベータ株式会社
株式会社NSD
NCS&A株式会社
NDIソリューションズ株式会社
株式会社NTTデータ アイ
株式会社NTTデータ関西
株式会社NTTデータグループ
株式会社NTTデータ・ニューソン
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
MIデジタルサービス株式会社
MS&ADシステムズ株式会社
株式会社エル・ティー・エス
株式会社オーシャン・コンサルティング
株式会社大塚商会
キーウェアソリューションズ株式会社
キヤノン株式会社
キヤノンITソリューションズ株式会社
キンドリルジャパン株式会社
キンドリルジャパン・テクノロジーサービス 株式会社
クオリカ株式会社
株式会社クレスコ
KDDI株式会社
株式会社神戸製鋼所
コベルコシステム株式会社
サイフォーマ株式会社
JFEシステムズ株式会社
株式会社JQ
株式会社JSOL
JBCC株式会社
株式会社シグマクシス
株式会社システムインテグレータ
株式会社システム情報
システムスクエア株式会社
情報技術開発株式会社
Smartsheet Japan株式会社
住友電工情報システム株式会社
ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
SOMPOシステムズ株式会社
大日本印刷株式会社
TIS株式会社
テルモ株式会社
東芝インフォメーションシステムズ株式会社
東芝テック株式会社
株式会社東レシステムセンター
TOPPANエッジ株式会社
株式会社トヨタシステムズ
株式会社TRADECREATE
日揮グローバル株式会社
ニッセイ情報テクノロジー株式会社
日鉄ソリューションズ株式会社
日本電気株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
株式会社日本ウィルテックソリューション
日本自動化開発株式会社
日本情報通信株式会社
日本電子計算株式会社
日本ビジネスシステムズ株式会社
日本ヒューレット・パッカード合同会社
日本プロセス株式会社
株式会社ネクストスケープ
ネットワンシステムズ株式会社
株式会社野村総合研究所
株式会社パーソル総合研究所
株式会社パスコ
株式会社PE-BANK
ビジネスエンジニアリング株式会社
ビジネステクノクラフツ株式会社
株式会社日立アカデミー
株式会社日立産業制御ソリューションズ
株式会社日立システムズ
株式会社日立社会情報サービス
株式会社日立製作所
株式会社日立ソリューションズ
BIPROGY株式会社
株式会社ヒューマンテクノシステム
富士電機株式会社
フラッグス株式会社
プラネット株式会社
株式会社マネジメントソリューションズ
三菱総研DCS株式会社
株式会社三菱総合研究所
三菱電機株式会社
三菱電機エンジニアリング株式会社
三菱電機ソフトウエア株式会社
明治安田システム・テクノロジー株式会社
ペルノックス株式会社
ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
株式会社ラック
株式会社リクルート
株式会社リコー
リコージャパン株式会社
ロジスティードソリューションズ株式会社
株式会社ワコム

アカデミック・スポンサー（52組織）

（五十音順）

青山学院大学 国際マネジメント研究科
明石工業高等専門学校 建築学科大塚研究室
江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文化学科
愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
公立大学法人大阪 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター
大阪大学大学院 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
岡山大学 教育研究プログラム戦略本部 戦略的プログラム支援ユニット（URA）
香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
鹿児島大学 産学・地域共創センター
学校法人 角川ドワンゴ学園 経験学習部
金沢工業大学
川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
九州大学大学院 芸術工学府デザインストラテジー専攻
京都光華女子大学
京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究センター
慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 飯島研究室
地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
神戸女子大学 家政学部家政学科
公立大学法人 公立はこだて未来大学
サイバー大学
札幌学院大学
サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
産業技術大学院大学
芝浦工業大学
就実大学 経営学部 経営学科
国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
第一工科大学 東京上野キャンパス
千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
中央大学 国際情報学部
中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
中京大学 情報センター
筑波大学大学院 システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 サービスシステムデザイン研究室
東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
東京理科大学 経営学部 国際デザイン経営学科 森本研究室
国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
広島修道大学 経済科学部
公立大学法人 広島市立大学 大学院情報科学研究科
福岡工業大学 情報工学部システムマネジメント学科
法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 敷田研究室
北海道情報大学
北海道大学大学院 情報科学研究科
独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校
明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
山口大学 工学部知能情報工学科
山口大学大学院 技術経営研究科
国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター
早稲田大学ビジネススクール
早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科

行政スポンサー（4組織）

滋賀県大津市 市民部
広島県 総務局 県庁情報システム担当
広島県福山市役所
三重県桑名市

Project Management Institute. Japan

一般社団法人 PMI日本支部

〒103-0008　東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階
https://www.pmi-japan.org/
info@pmi-japan.org

商標等について

「PMI」とPMIの口ゴ、「CAPM」、「CHOOSE YOUR WOW!」、「DISCIPLINED AGILE」、「OPM3」、「PfMP」、「PgMP」、「PM NETWORK」、「PMBOK」、「PMI PROJECT MANAGEMENT READY」、「PMI TODAY」、「PMI-ACP」、「PMI-PBA」、「PMI-RMP」、「PMI-SP」、「PMO OF THE YEAR」、「PROJECT MANAGEMENT JOURNAL」、「PROJECTMANAGEMENT.COM」、「PULSE OF THE PROFESSION」は、Project Management Institute, Inc.,（以下 PMI, Inc.,）の登録商標です。